

富士宮市 男女共同参画に関するアンケート調査結果報告書【概要版】

令和6年11月

第4次富士宮市男女共同参画計画の策定にあたり、市民、市内事業所及び中学生の男女共同参画に関する意識や実態を把握し、今後の男女共同参画に関する取り組みの重要な基礎資料とすることを目的とします。

I 調査概要

1. 実施概要

項目	①市民意識調査	②事業所調査	③市民意識調査 (中学生)
①調査対象	市内在住の18歳以上 2,500人	市内に所在の事業所 350社	市内公立中学校(13校)・私立中学校(1校) の中学2年生1,164人
②抽出方法	住民基本台帳より 無作為抽出	市内事業所より 無作為抽出	全員に対し実施
③調査方法	郵送配付・郵送回収 (インターネットによる回答を併用) ※8月中旬に督促状兼お礼状ハガキを発送		インターネットによる 配布・回収
④調査期間	令和6年7月22日(月)～8月23日(金)		令和6年7月上旬 ～7月25日(木)
⑤回収結果	郵送 845件 WEB 290件 計 1,135件(45.4%)	郵送 113件 WEB 47件 計 160件(45.7%)	833件(71.6%)

2. 調査項目

①市民意識調査	②事業所調査	③市民意識調査(中学生)
<ul style="list-style-type: none"> ▶ 社会における制度・慣行について ▶ 男女共同参画に関する教育・学習について ▶ 意思決定過程への女性の参画について ▶ 防災対策における男女参画について ▶ 地域社会とのつながりについて ▶ 用語などについて ▶ 男女がともに働きやすい就業環境について ▶ ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)について ▶ 性的マイノリティについて 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 事業所の状況について ▶ 女性の活躍推進・管理職登用について ▶ 各種ハラスメント対策について ▶ 育児・介護休業制度について ▶ 仕事と家庭の両立支援について ▶ 性的マイノリティについて 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 学校生活での平等感について ▶ 友達との関係について ▶ 親との関係について ▶ 男女家庭生活について ▶ 「女らしさ」「男らしさ」などについて ▶ 性的マイノリティについて ▶ DV・デートDVについて ▶ 悩みや不安について ▶ 将来のことについて ▶ 性的マイノリティについて

Ⅱ 調査結果のまとめ

1. 回答者の属性について（市民：P7）

市民意識調査の回答者の年代について、50歳代以下の現役世代は全体の4割となっています。前回調査に比べ、回答者の年齢層の上昇がみられます。

家庭の就業状況においては、「共働き（パートタイム・内職などを含む）」については前回調査と同程度の約5割であるものの、年齢別では子育て世代にあたる30～40歳代では8割を超えています。また、中学生調査においても、家で働いている人として「父」「母」両方が多くあげられるなど、共働き家庭が主流となりつつことがわかります。

2. 社会における制度・慣行について（市民：P8～9）

「男は仕事、女は家庭」という考え方に『反対』（「反対」と「どちらかといえば反対」の合計）の割合は、前回調査では72.1%（「わからない」を除き再集計）であったのに対し、今回調査では81.6%となるなど、固定的な性別役割分担意識については解消に向けて進みつつあることがわかります。

各分野における男女の平等感については、＜学校教育の場＞で「男女平等」が6割を超え最も平等であると認識されています。前回調査と比較すると＜職場＞において、『男性優遇』（「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計）の割合が減少し、平等感の改善が見られます。

一方で、『男性優遇』は＜政治の場＞で8割、＜社会通念や慣習・しきたり＞、＜社会全体＞で7割を超えています。また、性別では女性で＜法律や制度の上で＞＜家庭生活で＞において『男性優遇』の値が高いなど、依然として男女平等になっていないと感じる市民が多いことから、生活のさまざまな場面において、性別による不平等が生じていないかの確認と不平等の解消に向けた意識啓発が必要です。

3. 男女共同参画に関する教育・学習について（市民：P10／中学：P44）

子どもの育て方については、「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てるのがよい」や「ある程度は男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てるのがよい」などの回答割合は、前回調査に比べ低下しています。

子どもの進路や職業の選択の性別の意識についても、『意識した』（「性別をかなり意識した（意識する）」と「どちらかといえば性別を意識した（意識する）」の合計）割合は、前回調査に比べ低下しています。

ただし、中学生調査の結果と比較すると、中学生の方がより性別を意識しない傾向が強いことから、子どもの性別によって進路・職業の選択肢の幅が狭まることがないように、保護者への意識啓発を継続的に行うことも必要です。

4. 意思決定過程への女性の参画について（市民：P11）

地域において女性が代表や運営に携わる立場になることへの考え方については、＜自治会・町内会＞＜子ども会＞＜PTA＞＜避難訓練等の防災活動＞においては「男女半々になるまで増えた方がよい」や「男女半々まではいかなくても、女性が今より増える方がよい」などの回答割合が高くなっていますが、＜消防団＞においては、「今のままでよい」が最も高くなっています。また、性別で比較すると、すべての項目で女性の「今のままでよい」割合が男性を上回るなど、女性自身が参加に消極的な姿勢であることがうかがえます。

地域活動における女性の意思決定過程への参画については、女性が参加することの重要性や意義の周知、女性が参加することを後押しする仕組みづくりや支援体制が求められます。

5. 防災対策における男女共同参画について（市民：P12）

男女共同参画の視点から望ましい避難所での支援については、「男女別のトイレ、入浴施設、寝所など、性別に配慮した施設・空間の設置」が最も多くあげられています。

性別では、女性で「防犯ブザーの配布や夜間の見回りなど、避難所の防犯対策」や「女性用下着や生理用品を配布する際、女性には女性職員が配布するなどの細かな気配り」の割合が高くなっています。

今年1月に発生した令和6年能登半島地震においても、「女性の視点からの防災・復興ガイドライン」に基づく取り組みを進めるよう各自治体に要請がされています。女性のニーズに応じた支援を行うためにも、避難所運営や備蓄品の選定、防災訓練等の防災活動に女性が積極的に参加する・参加できる環境を整えること、防災分野における意思決定過程への女性の参画が重要です。

6. 地域社会とのつながりについて（市民：P13～14）

地域の活動については、現在取り組んでいる、今後取り組みたい活動どちらも「いずれもない」が半数以上を占めています。今後取り組みたい活動がない理由として、若い世代や子育て世代では仕事や家事・育児が忙しく時間がないこと、高齢世代では「自分の健康や体力に自信がない」が多くあげられていることから、日々の生活や自分の健康状態に合わせて無理なく参加できる地域活動のあり方の検討や役員等の業務の負担感の軽減について検討することが必要です。

7. 用語などについて（市民：P15）

用語や市の事業等について「内容まで知っている」とする割合は、＜ドメスティック・バイオレンス（DV）＞で7割、＜④デートDV＞と＜①ジェンダー＞が4割台である一方で、＜リプロダクティブ・ヘルス／ライツ＞や比較的新しい用語である＜アンコンシャス・バイアス＞では「知らない」が6～7割を占めるなど、男女共同参画に関する用語は、認知が進んだもの、進まないものがはっきり分かれています。

また、市のプランや男女共同参画センターを「内容まで知っている」割合はわずかに5%台であり、市のプランや男女共同参画推進の拠点である男女共同参画センター認知度の向上に力を入れる必要があるとともに、認知度が低い用語等については、さまざまな機会を利用して市民にわかりやすい言葉で周知啓発することが重要です。

8. 男女がともに働きやすい就業環境について

(1) 市民意識調査より

■女性の就労継続について（市民：P16～18、P25）

女性が働くことへの考え方については、「結婚や出産・育児にかかわらず、ずっと職業を持ち続ける方がよい」（就労継続型）の割合が前々回 33.8%、前回調査 40.1%から今回調査 47.7%と一貫して増加を続けています。

一方で、国・県と比較すると、「出産・育児期間は仕事をやめ、子どもが成長したら再び職業を持つ方がよい」（一時中断型）の割合は 35.7%であり、国の 27.1%、県の 23.5%を大きく上回っています。

また、中学生調査では一時中断型が 42.1%で最も高く、就労継続型が 17.5%となっています。

女性が継続して働く上での課題においては、育児・介護休業制度に関する項目や賃金や採用・昇進、仕事内容等男女間の格差に関する項目が上位にあげられています。

また、市で取り組むべき重点項目として、女性において「誰もが働きやすい職場環境づくりへの支援」「子育てや介護への支援の充実」が5割を超え多くあげられています。

育児休業・介護休業の取得は労働者に認められた大切な権利であることの啓発や仕事と家庭の両立支援制度のなどさまざまな取り組みを多方面から推進することが重要です。

(2) 事業所調査より

① 女性活躍の推進について（事業所：P28～29）

女性の管理職登用について、管理職（部・課長級）に占める女性の割合として、女性管理職はいない事業所が半数を占めています。（あくまで今回調査に回答した事業所の記載内容から算出したものであり参考値）

女性職員の管理職への登用については、「女性の管理職への登用は必要だが、自然増に任せるべきである」が 56.9%と半数以上を占めており、前回調査から大きな変化はありません。

女性管理職登用の課題は「必要な知識や経験、判断力等を有する女性がない」が約3割、「女性が希望しない」「家庭があるので責任ある仕事に就けられない」などが続きます。

女性活躍推進法の施行より8年が経過し、改めて女性活躍推進の意義や女性が活躍できる社会の実現に向けた企業に向けた啓発や情報提供が必要です。

② ハラスメントについて（事業所：P30）

各種ハラスメント対策については、＜従業員からの苦情・相談があった場合には、真摯かつ迅速に対応している＞などの事後対応では9割を超えるものの、前回調査と比べ大きな変化は見られません。また、事業所規模が小さいほど、取り組みを行っている割合が低い傾向が見られます。

関連する法律（労働施策総合推進法、育児・介護休業法等）の改正により、職場における各種ハラスメント防止対策が中小企業においても強化されていることを受け、各種ハラスメント対策についても、事業主の義務や必要となる対応について、継続的な周知啓発が必要となっています。

③ 育児・介護休業制度について（事業所：P31）

育児休業制度の取得については、女性従業員に比べ、男性従業員では育児休業の取得人数が少なく、平均取得期間についても、女性従業員に比べ男性従業員で期間が短い傾向が見られました。

育児・介護休業制度が定着するための主な課題については、「休業中の代替要員の確保」が7割台と突出して多く、前々回・前回調査に引き続き課題であり続けています。

小規模事業所への支援をはじめ、従業員の育児休業・介護休業の取得に際し企業が利用できる支援制度に関する周知・情報提供等が求められます。

9. ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について

（市民：P19～22／中学：P36）

家庭・育児・介護等の役割分担について、現状では＜掃除、洗濯、食事の支度など＞や＜日々の家計の管理＞、＜育児、子どものしつけ＞や＜子どもの行事への参加＞は主に妻が行うことが多く、＜生活費を稼ぐ＞や＜ゴミ出しなどの簡単な家事＞、＜⑧自治会などの地域活動＞は主に夫が行うことが多くなっています。分担の希望についてもたずねていますが、「夫と妻が同じくらい」の割合は、男女ともにすべての項目で希望が現状の割合を上回るなど、男女が協力して分担することが望ましいと考えている人も多いことがわかります。

中学生調査においても、家事・育児等は女性（母）、稼得役割や地域活動は男性（父）のような家族内の分担となっている状況がみられます。

ワーク・ライフ・バランスを実現するために職場・家庭・地域で必要だと思う取り組みについては、「職場の雰囲気が変わること（帰宅のしやすさなど）」が最も多く、次いで「保育所など仕事と家事・育児・介護を両立するための施設が整備されること」「育児休業や短期時間勤務など、仕事と家事・育児・介護を両立するための制度が整備されること」があげられており、前回調査から変化は見られません。性別では、「配偶者（又はパートナー）が家事・育児・介護に参加してくれること」の割合は、女性が男性を大きく上回ります。

共働き世帯が増加する一方で、家庭内の家事・育児等の分担については、未だ女性に偏っている状況がみられます。家庭における男女の平等感の向上に向けて、性別を問わず、ともに家事や育児等にも参加できるよう、家族が協力し合う意識の醸成と実践を推進することが求められます。

10. 性的マイノリティについて（市民：P24／中学：P39）

性的マイノリティ（またはLGBTQ+）の方々にとって生活しづらい社会であるかどうかについては、『思う』（「思う」と「どちらかといえば思う」の合計）割合は6割を超えています。当事者が生活しやすくなるために必要な対策については、「働きやすい職場環境づくりの取り組みをする」や「法律等に、性的マイノリティの方々への偏見や差別解消への取り組みを明記する」が多くあげられています。

中学生調査において、性的指向や性自認で悩んだ経験が「ある」との回答は、全体の1割を超えており、性的マイノリティに関する課題を社会のごく一部の人の問題と捉えるのではなく、身近なところにもそうしたことで悩みを抱える人がいる可能性を考え、幅広い世代に向け、多様な性に関する正しい知識の普及や情報発信を行うことが重要です。また、悩みを抱える当事者が必要に応じて相談できるよう、相談先の周知も併せて行うことが必要です。

11. デートDVについて（中学：P40～41）

中学生調査において、「DV（ドメスティック・バイオレンス）」と「デートDV」の認知については、「言葉も内容も知っている」割合は5～6割台となっています。

デートDVだと思う恋人との間での言動については、殴る・蹴るなどの身体的暴力は「デートDVだと思う」割合が8割を超える一方で、常に自分を優先してほしいと言うことや相手の考えを聞かずに決定するなどの項目では「デートDVではない」や「わからない」の割合も高いことから、何がデートDVに該当するかをはじめ、男女間や他者との関係において相手を尊重する・思いやる気持ちをもつことについて、情報提供や意識啓発を行うことが必要です。

12. 将来のことについて（中学：P42～43）

中学生調査において、富士宮市への定住意向は、「一度は市外に出て、いずれ戻ってきたい」が4割台前半で最も高く、『住み続けたい』（「ずっと住み続けたい」と「どちらかといえば住み続けたい」の合計）は3割台前半となっています。

市に住み続けたくない理由については、「他に住んでみたい地域があるから」が6割を超え最も高く、次いで「都会の方が暮らしやすそうだから」が4割台前半で続きます。性別では「希望する仕事や魅力ある仕事などやりたいことがないから」は女性が男性を大きく上回ります。

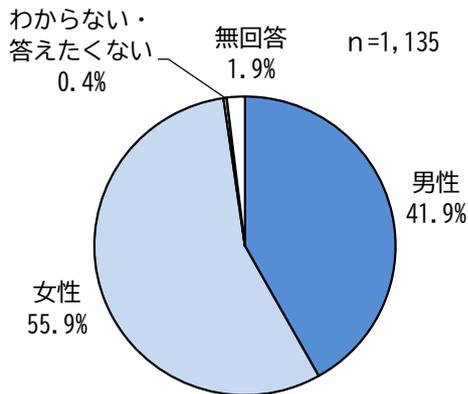
若年女性人口の流出は静岡県においても課題とされていますが、若い女性が働きたいと思える働く場の多様性の確保、県内及び市内企業の積極的な情報発信などが重要となっています。

Ⅲ 市民意識調査の結果

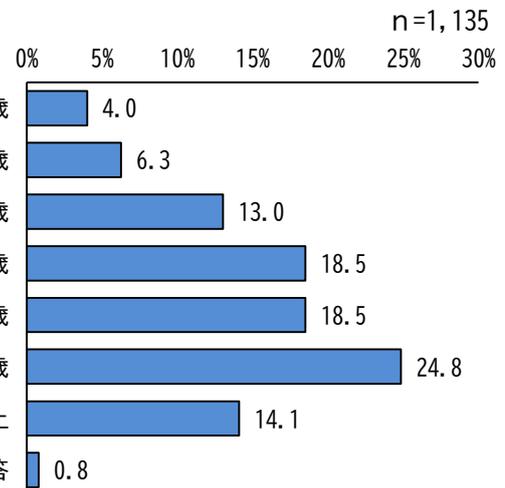
1. 回答者の属性

- ◆回答者の性別は、男性が約4割、女性が5割台半ばです。
- ◆年代は、30歳代以下は全体の1割程度、40歳代は1割強、50歳代・60歳代はそれぞれ2割弱、70歳以上は約4割となっています。

【性別】

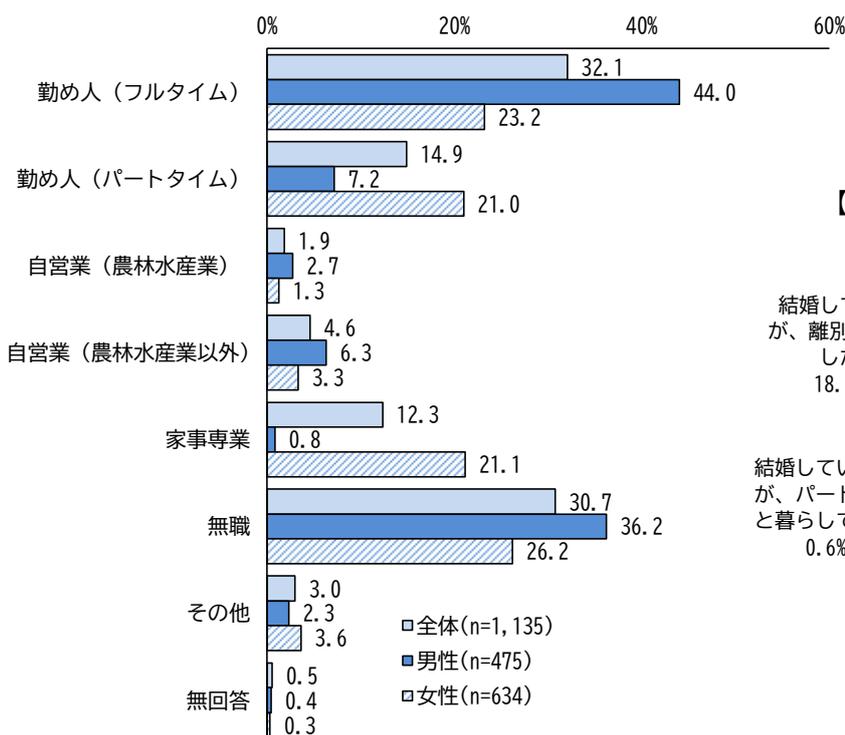


【年齢】

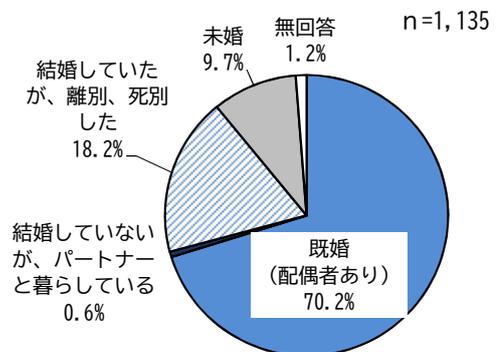


- ◆職業は、フルタイムが約3割台、パートタイムと家事専業が1割台前半、無職が約3割となっています。性別で見ると、女性は男性に比べパートタイムや家事専業が、男性は女性に比べフルタイムや無職の割合が高くなっています。共働きの状況では、約5割が「共働き」であり、30～40歳代では「共働き」が8割を超えています。
- ◆婚姻状況については、約7割が「既婚」であり、家族構成は「両親と子の二世代世帯」と「夫婦のみの世帯」がそれぞれ3割台、「1人世帯」は1割台となっています。

【職業】



【婚姻状況】

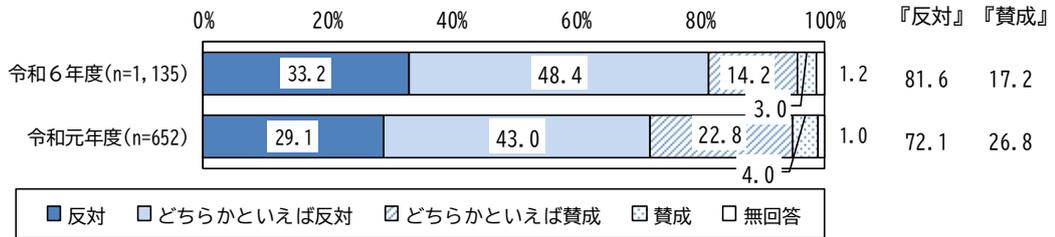


2. 社会における制度・慣行について

(1) 「男は仕事、女は家庭」という考え方について

問 12 あなたは、「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思いますか。(1つに○)

◆男は仕事、女は家庭という考え方について反対する意見が全体で8割を超えており、特に女性や18～29歳と40歳代でその傾向が強く見られます。



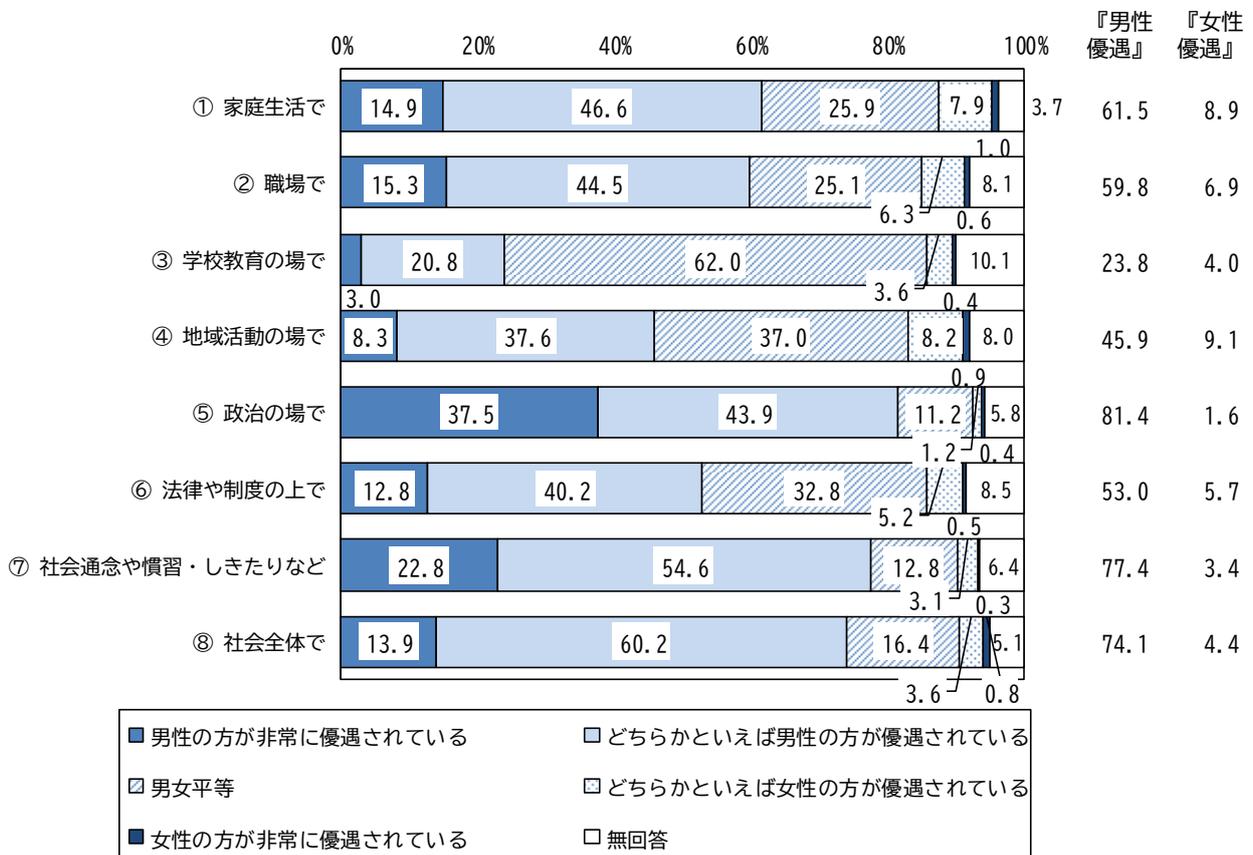
※令和元年度（前回調査）の「わからない」を除き再集計。

※「男は仕事、女は家庭」という考え方＝固定的な性別役割分担意識

男性、女性という性別を理由として役割を固定的に分ける考え方のことで、職場においては「男性は主要な業務、女性は補助的業務」といった固定的な考え方により、男性、女性の役割を決めている例。

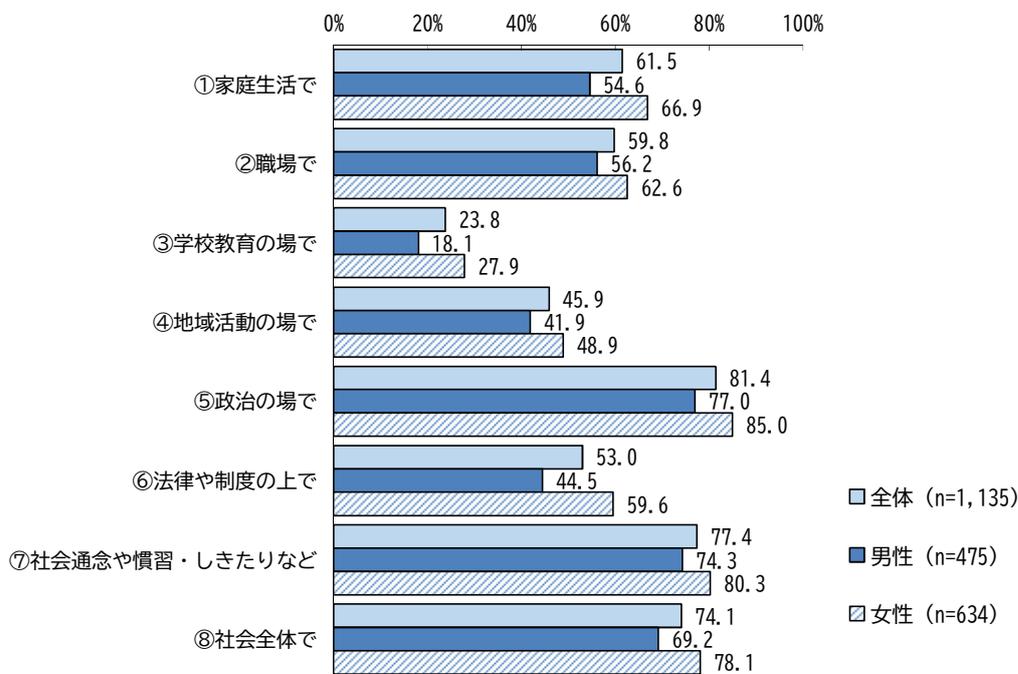
(2) 各分野における男女の平等感

◆各分野における男女の地位の平等について「男女平等」との回答は、＜③学校教育の場で＞が6割台で最も高く、次いで＜④地域活動の場で＞、＜⑥法律や制度の上で＞が各3割台となっています。



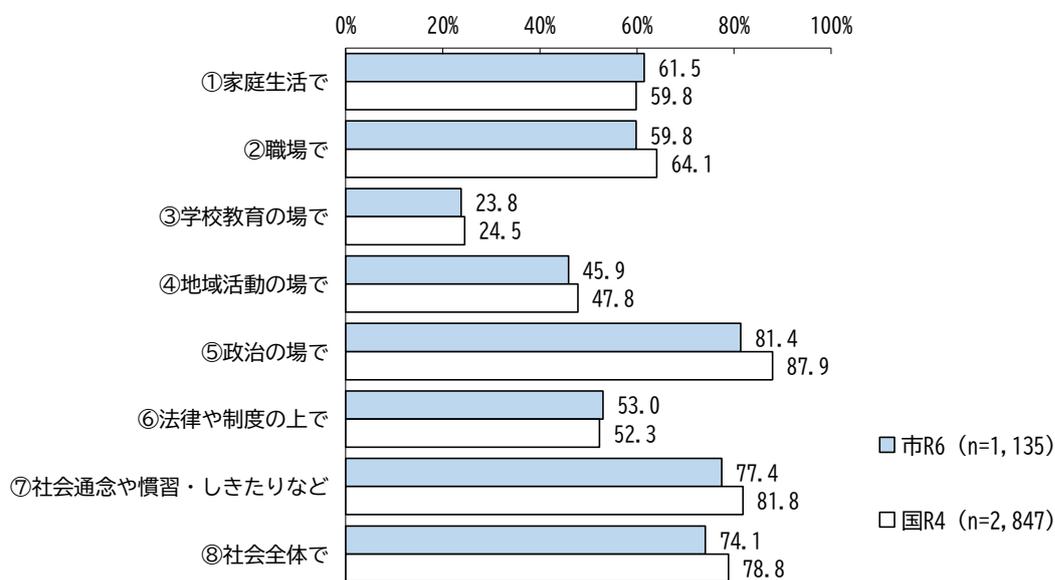
◆一方で、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合計した『男性優遇』は、＜⑤政治の場で＞で8割、＜⑦社会通念や慣習・しきたりなど＞や＜⑧社会全体で＞で7割、＜①家庭生活で＞において6割を超えています。性別でみると、『男性優遇』は＜⑥法律や制度の上で＞と＜①家庭生活で＞で女性が男性を10ポイント以上上回っています。

各分野における男女の地位の平等（『男性優遇』の割合・性別）



◆『男性優遇』の割合を国の調査結果（令和4年11月実施）と比較すると、＜⑤政治の場で＞や＜⑧社会全体で＞、＜⑦社会通念や慣習・しきたりなど＞、＜②職場で＞では、市が国の値を下回っています。

各分野における男女の地位の平等（『男性優遇』の割合・国との比較）

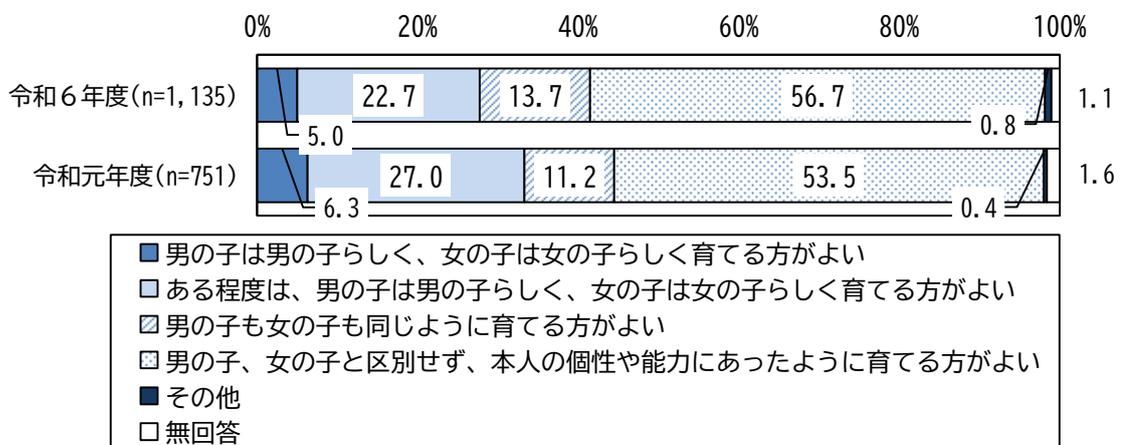


3. 男女共同参画に関する教育・学習について

(1) 子どもの育て方

問 15 あなたは、子どもの育て方についてどのように考えますか。(1つに○)

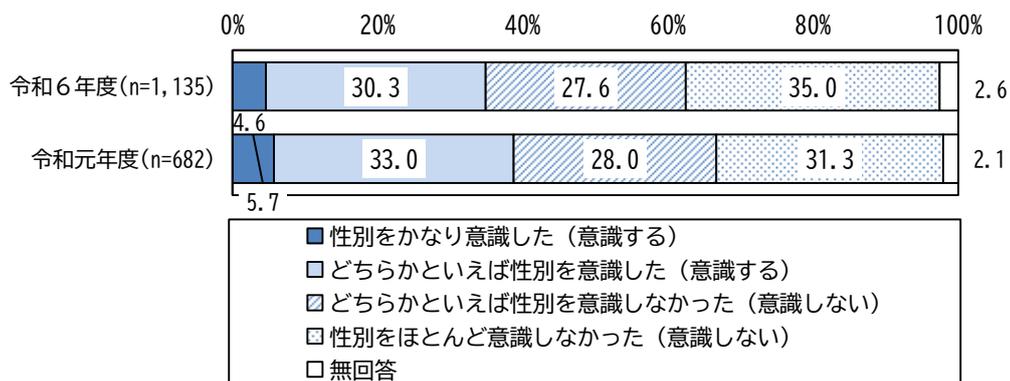
- ◆子どもの育て方について、「男の子、女の子と区別せず、本人の個性や能力にあったように育てる方がよい」が最も高く、次いで「ある程度は、男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てる方がよい」、「男の子も女の子も同じように育てる方がよい」の順となっています。
- ◆経年比較でみると、「ある程度は、男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てる方がよい」が低下し、「男の子も女の子も同じように育てる方がよい」や「男の子、女の子と区別せず、本人の個性や能力にあったように育てる方がよい」の割合が上昇しています。



(2) 子どもの進路や職業の選択における性別の意識

問 16 あなたは、子どもの進路や職業の選択に性別を意識しましたか。また、該当する子どもがいない方は性別を意識すると思いますか。(1つに○)

- ◆「性別をほとんど意識しなかった(意識しない)」と「どちらかといえば性別を意識した(意識する)」がともに3割台、「どちらかといえば性別を意識しなかった(意識しない)」が27.6%、「性別をかなり意識した(意識する)」が4.6%となっています。
- ◆前回調査とは選択肢が異なるため※、再集計を行い比較をしたところ、「性別をほとんど意識しなかった(意識しない)」が3.7ポイント上昇しています。



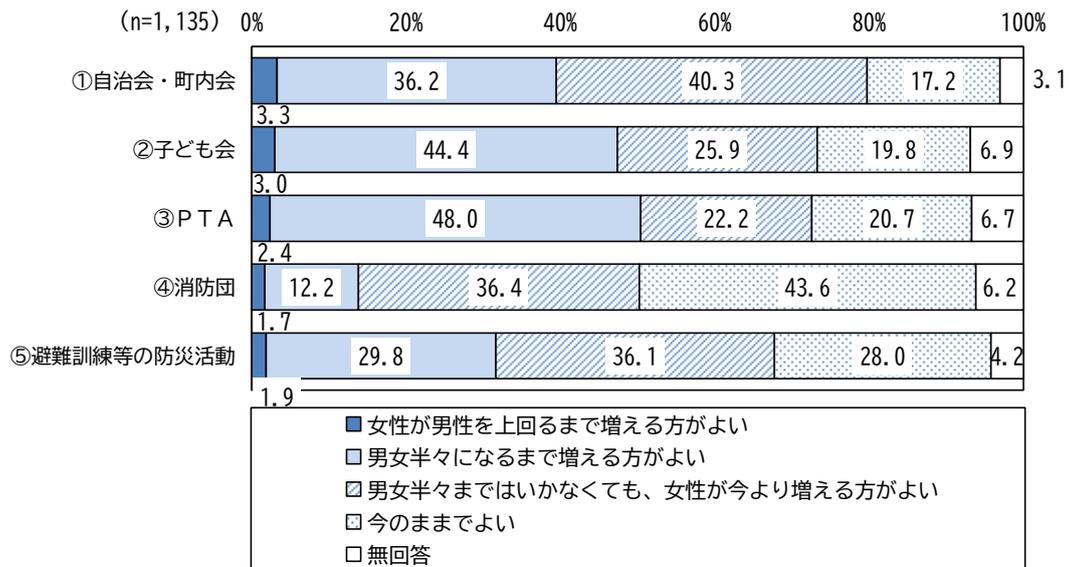
※令和元年度(前回調査)の「わからない」を除き再集計。

4. 意思決定過程への女性の参画について

(1) 地域活動における女性の参画について

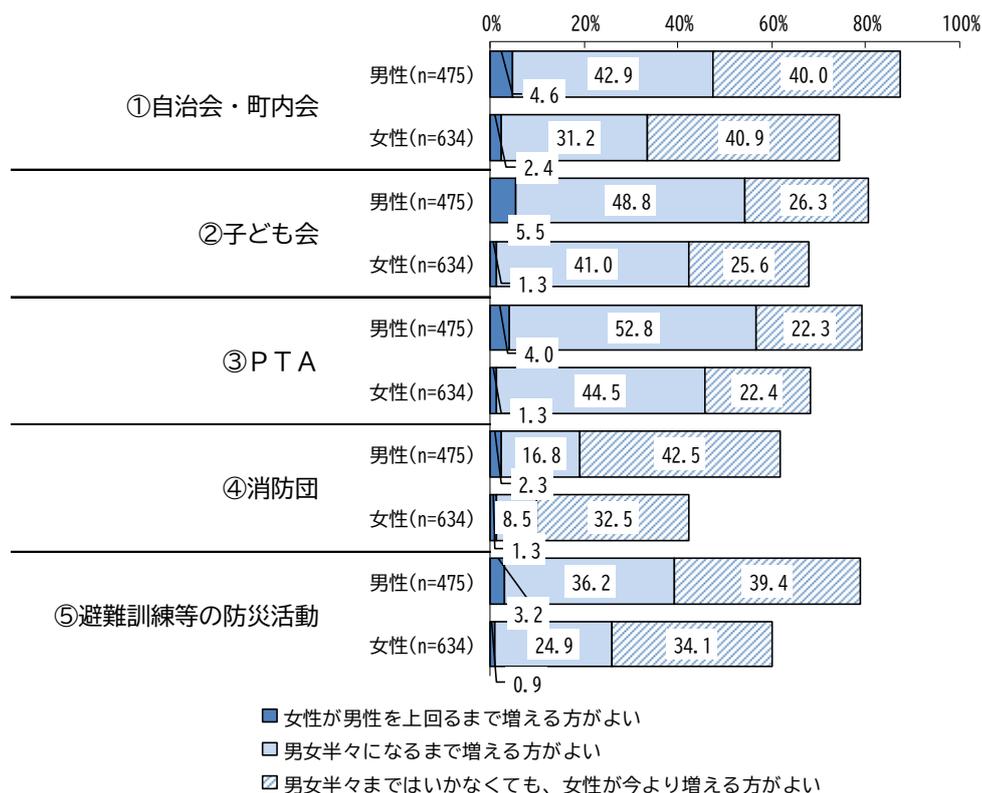
問 17 あなたは、地域活動において女性が代表や運営に携わる立場になることについてどのように考えますか。(1つに○)

◆ <①自治会・町内会>と<⑤避難訓練等の防災活動>は「男女半々まではいかなくても、女性が今より増える方がよい」、<②子ども会><③PTA>は「男女半々になるまで増える方がよい」、<④消防団>は「今のままでよい」がそれぞれ最も高くなっています。



◆ 性別で比較すると、すべての項目で「男女半々まではいかなくても、女性が今より増える方がよい」との回答は、男性が女性を上回ります。

地域活動における女性の参画について（性別）※一部抜粋

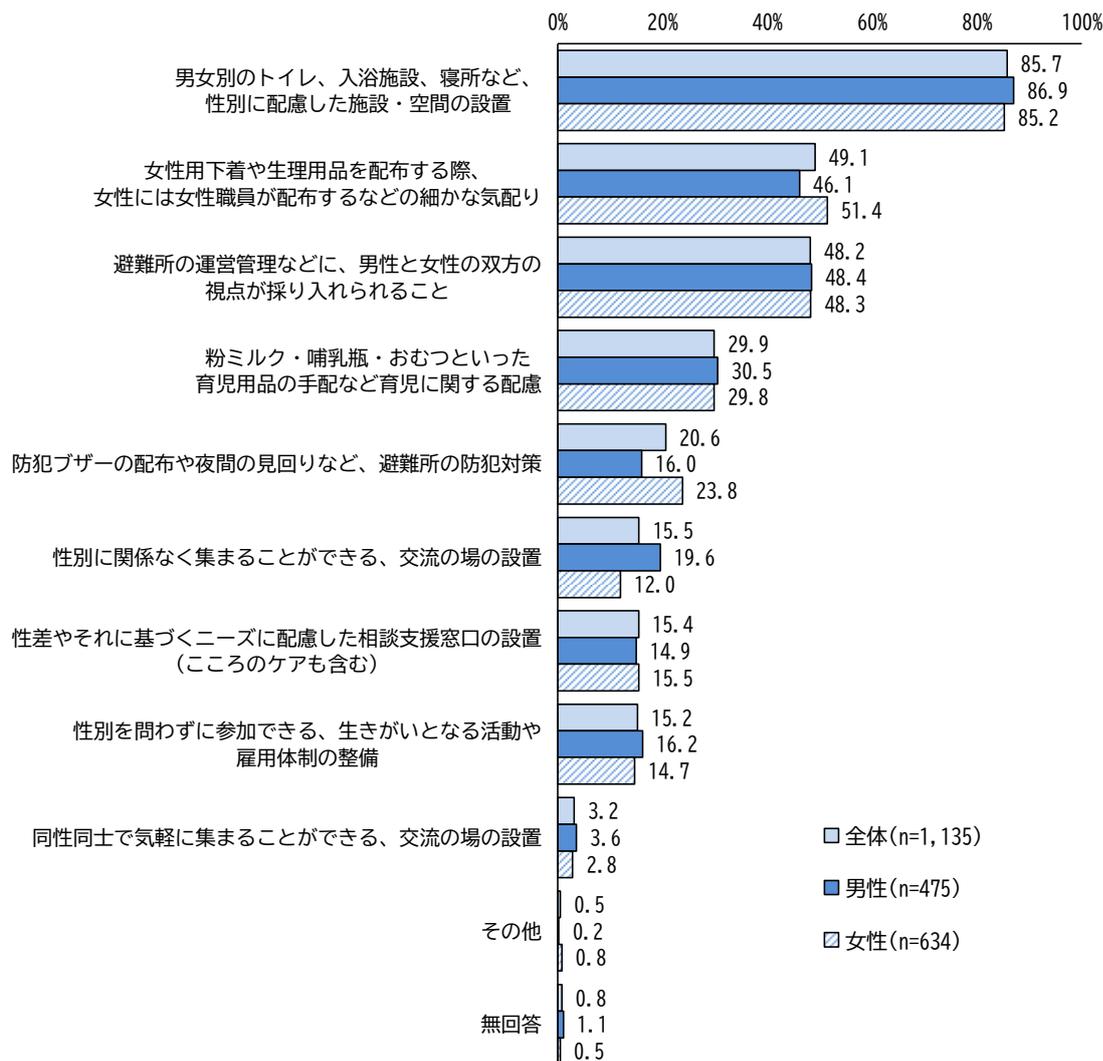


5. 防災対策における男女参画について

(1) 男女共同参画の視点から望ましい避難所での支援

問 18 災害時の緊急避難所において、男女共同参画の視点から望ましいと思われる民間及び行政の支援は何ですか。(3つまでに○)

- ◆ 「男女別のトイレ、入浴施設、寝所など、性別に配慮した施設・空間の設置」が8割台半ばで最も高く、次いで「女性用下着や生理用品を配布する際、女性には女性職員が配布するなどの細かな気配り」と「避難所の運営管理などに、男性と女性の双方の視点が採り入れられること」が4割台後半、「粉ミルク・哺乳瓶・おむつといった育児用品の手配など育児に関する配慮」が約3割、「防犯ブザーの配布や夜間の見回りなど、避難所の防犯対策」が約2割となっています。
- ◆ 性別で比較すると、「性別に関係なく集まることができる、交流の場の設置」は男性が女性を上回り、「防犯ブザーの配布や夜間の見回りなど、避難所の防犯対策」や「女性用下着や生理用品を配布する際、女性には女性職員が配布するなどの細かな気配り」は女性が男性を上回ります。



6. 地域社会とのつながりについて

(1) 現在取り組んでいる・今後取り組みたい活動

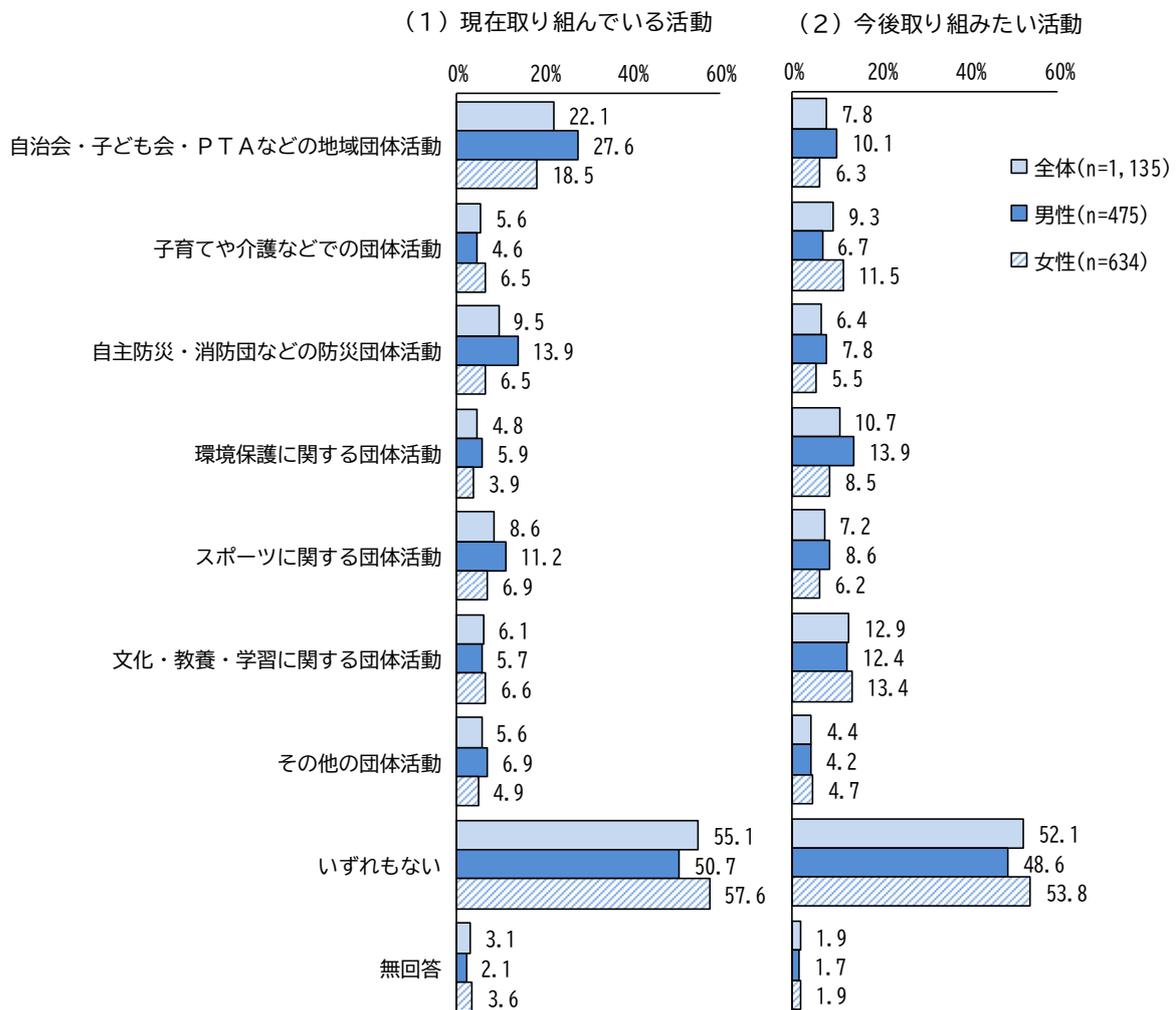
問 20 あなたが、次にあげる地域での活動の中で (1) 現在取り組んでいる活動、(2) 今後取り組みたい活動をお答えください。(〇はいくつでも)

◆現在取り組んでいる活動については、「いずれもない」が5割台と最も高いものの、「自治会・子ども会・PTAなどの地域団体活動」で約2割、「自主防災・消防団などの防災団体活動」が約1割、「スポーツに関する団体活動」「文化・教養・学習に関する団体活動」などの順となっています。

性別で比較すると、「自治会・子ども会・PTAなどの地域団体活動」や「自主防災・消防団などの防災団体活動」は男性が女性を上回り、「いずれもない」は女性が男性を上回ります。

◆今後取り組みたい活動については、「いずれもない」が5割台と最も高いものの、「文化・教養・学習に関する団体活動」や「環境保護に関する団体活動」が1割台、以下「子育てや介護などでの団体活動」「自治会・子ども会・PTAなどの地域団体活動」「スポーツに関する団体活動」などの順となっています。

性別でみると、「環境保護に関する団体活動」と「自主防災・消防団などの防災団体活動」は男性が女性を上回り、「いずれもない」は女性が男性を上回ります。



(2) 今後取り組みたい活動がない理由

問 21 今後取り組みたい活動がない理由をお答えください。(〇はいくつでも)

- ◆ 「自分の健康や体力に自信がない」が46.2%で最も高く、次いで「仕事が忙しく、時間がない」が31.3%、「経済的な余裕がない」が16.1%、「家事・育児が忙しく、時間がない」が10.5%、「自分のやりたい活動をしているグループや団体を知らない」が9.3%となっています。
- ◆ 性別で比較すると、「仕事が忙しく、時間がない」は男性が女性を上回り、「自分の健康や体力に自信がない」と「家事・育児が忙しく、時間がない」は女性が男性を上回ります。
- ◆ 年齢別にみると、18～69歳は「仕事が忙しく、時間がない」、70歳以上は「自分の健康や体力に自信がない」が最も高くなっています。

問21 今後取り組みたい活動がない理由

単位：%

		仕事が忙しく、時間がない	家事・育児が忙しく、時間がない	子どもの世話を頼めるところがない	親や病人の介護を頼めるところがない	自分の健康や体力に自信がない	自分のやりたい活動をしているグループや団体を知らない	身近なところに活動する場所がない
全体(n=591)		31.3	10.5	3.0	4.6	46.2	9.3	4.7
性別	男性(n=231)	34.6	5.6	2.2	3.0	39.4	6.5	3.0
	女性(n=341)	29.3	14.1	3.5	5.3	52.2	11.4	6.2
年齢別	18～29歳(n=20)	50.0	30.0	10.0	0.0	5.0	20.0	10.0
	30～39歳(n=40)	67.5	50.0	15.0	0.0	10.0	12.5	7.5
	40～49歳(n=69)	58.0	29.0	10.1	2.9	29.0	18.8	1.4
	50～59歳(n=109)	58.7	10.1	1.8	7.3	28.4	12.8	2.8
	60～69歳(n=109)	32.1	1.8	0.0	10.1	45.0	9.2	6.4
	70～79歳(n=151)	5.3	0.7	0.0	4.0	64.9	4.0	4.0
	80歳以上(n=91)	0.0	0.0	0.0	0.0	75.8	2.2	5.5

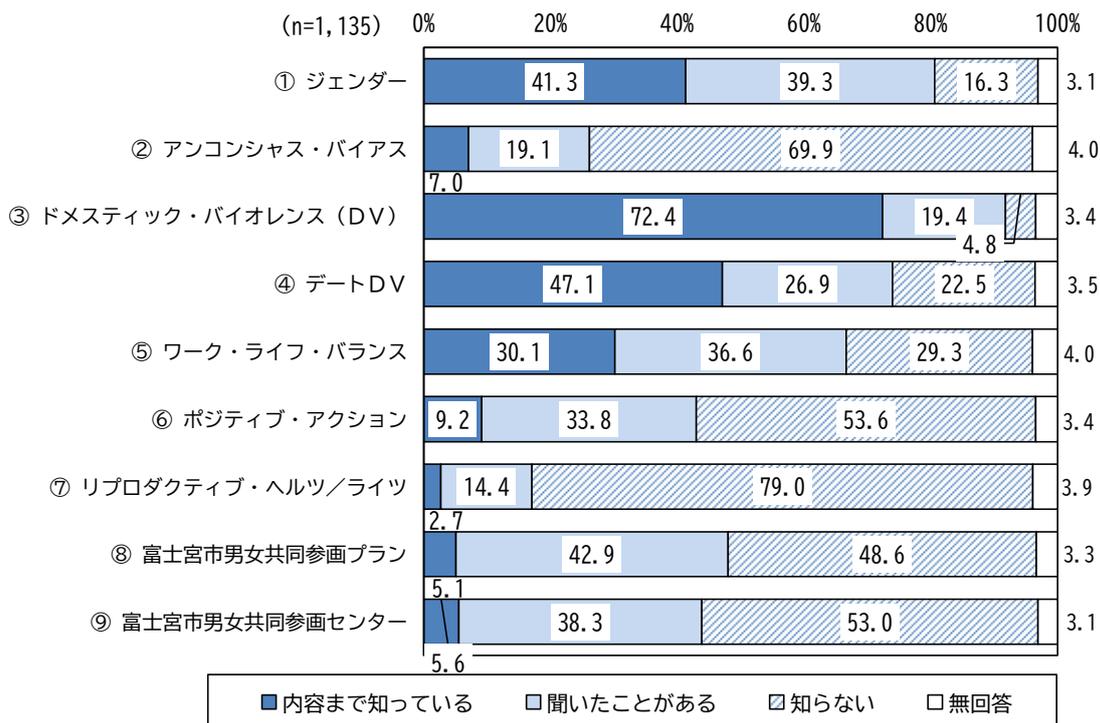
		経済的な余裕がない	家族の理解が得られない	職場の上司や同僚の理解が得られない	その他	特に理由はない	無回答
全体(n=591)		16.1	0.8	1.2	9.5	15.9	0.2
性別	男性(n=231)	16.9	0.4	1.3	11.7	17.7	0.4
	女性(n=341)	15.0	1.2	1.2	8.2	14.1	0.0
年齢別	18～29歳(n=20)	10.0	0.0	0.0	10.0	20.0	0.0
	30～39歳(n=40)	27.5	0.0	5.0	0.0	7.5	2.5
	40～49歳(n=69)	29.0	2.9	1.4	8.7	7.2	0.0
	50～59歳(n=109)	17.4	0.9	2.8	1.8	16.5	0.0
	60～69歳(n=109)	20.2	0.9	0.0	7.3	25.7	0.0
	70～79歳(n=151)	12.6	0.7	0.7	12.6	16.6	0.0
	80歳以上(n=91)	2.2	0.0	0.0	20.9	12.1	0.0

7. 用語などについて

(1) 男女共同参画に関する用語や市の事業の認知度

問 22 あなたは、次にあげる用語や市の実施する事業について知っていますか。(それぞれ1つに○)

◆男女共同参画に関する用語や市の事業の等の認知度について、「内容まで知っている」は、<③ドメスティック・バイオレンス(DV)>が7割台と最も高く、次いで<④デートDV>と<①ジェンダー>が4割台となっています。
「知らない」は、<⑦リプロダクティブ・ヘルツ/ライツ>や<②アンコンシャス・バイアス>で高くなっています。



【用語解説】※市の取り組み以外の「知らない」割合が高いものを掲載しています。

①ジェンダー（文化的社会的につくられた性別固定的役割意識）

「社会的・文化的に形成された性別」のこと。人間は生まれつきの生物的性別（セックス/SEX）がある。一方、社会通念や習慣の中には、社会によって作り上げられた「男性像」「女性像」があり、このような男性、女性の別を「社会的文化的に形成された性別」（ジェンダー）という。

②アンコンシャス・バイアス（無意識の思い込み）

自分自身は気づいていない「ものの見方やとらえ方のゆがみや偏り」をいい、自分自身では意識しづらく、ゆがみや偏りがあるとは認識していないため、「無意識の思い込み」と呼ばれる。

例えば「家事・育児は女性がすべきだ」、「男性は仕事をして家計を支えるべきだ」のようなものが該当する。

⑤ワーク・ライフ・バランス

仕事と仕事以外の生活（家庭生活、地域生活、個人の自己啓発など）が、希望するバランスで展開できる状態。「仕事の充実」と「仕事以外の充実」のバランスが保たれると、好循環をもたらし、多様性に富んだ活力ある社会を創出するため、その基盤として極めて重要とされる。

⑥ポジティブ・アクション

社会的・構造的な差別によって不利益を被っている者に対して、一定の範囲で特別の機会を提供することなどにより、実質的な機会均等を実現することを目的として講じる暫定的な措置のこと。

⑦リプロダクティブ・ヘルツ/ライツ（性と生殖に関する健康と権利）

女性自身が生涯を通じて健康を自己管理するとともに、子どもを産むかどうか、産むとしたらいつ、何人産むかといった、性と身体を含む自分の人生について自己決定する権利を持ち、妊娠・出産を含む性の問題を女性の人権に関わる問題として捉える考え方のこと。

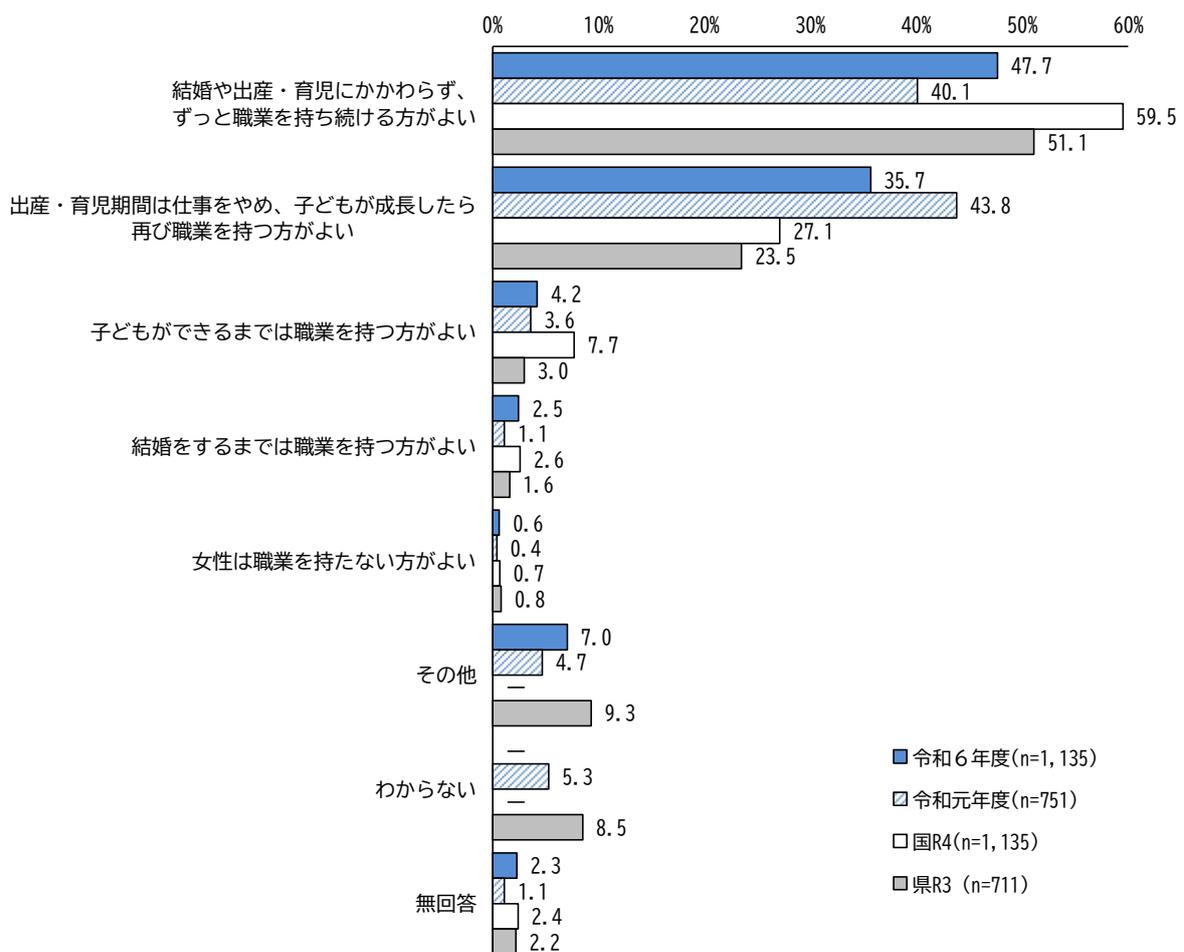
8. 男女がともに働きやすい就業環境について

(1) 女性が働くことについて

問 23 女性が働くことについてどのように考えますか。次の中からあなたの考えに近いものを選んでください。(1つに○)

- ◆ 「結婚や出産・育児にかかわらず、ずっと職業を持ち続ける方がよい」が47.7%で最も高く、次いで「出産・育児期間は仕事をやめ、子どもが成長したら再び職業を持つ方がよい」が35.7%、「子どもができるまでは職業を持つ方がよい」が4.2%、「結婚をするまでは職業を持つ方がよい」が2.5%となっています。性別でみても、大きな差は見られません。
- ◆ 前回調査との比較では、「出産・育児期間は仕事をやめ、子どもが成長したら再び職業を持つ方がよい」が低下し、「結婚や出産・育児にかかわらず、ずっと職業を持ち続ける方がよい」が上昇しています。
- ◆ 国の調査結果（令和4年11月実施）・県の調査結果（令和3年5月実施）との比較では、国や県に比べ「結婚や出産・育児にかかわらず、ずっと職業を持ち続ける方がよい」割合が低く、「出産・育児期間は仕事をやめ、子どもが成長したら再び職業を持つ方がよい」割合が高くなっています。

女性が働くことについての考え方（全体／前回調査／国・県調査との比較）

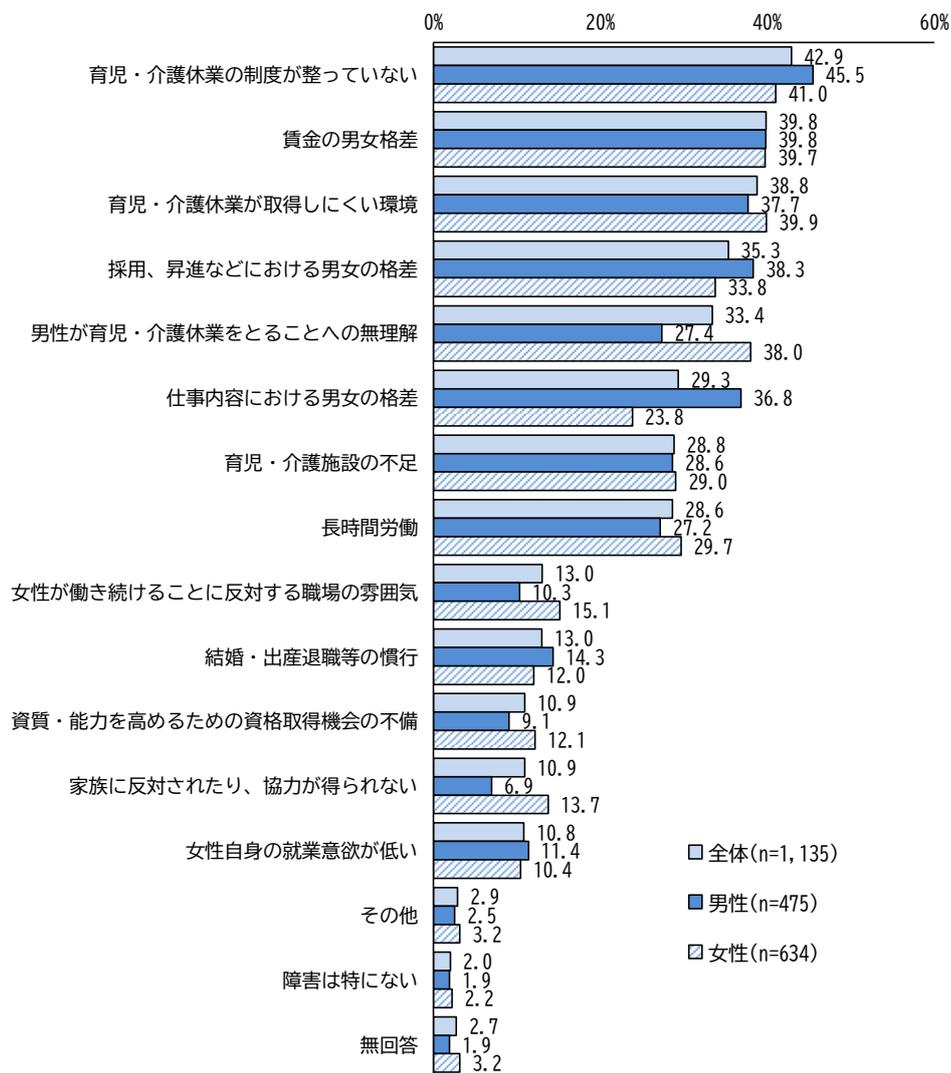


※市の令和6年度調査では選択肢「わからない」、国の令和4年度調査では選択肢「その他」「わからない」はありません。

(2) 女性の職業継続における課題

問 24 あなたは、女性が継続して働く上での課題は何だと思いますか。(〇はいくつでも)

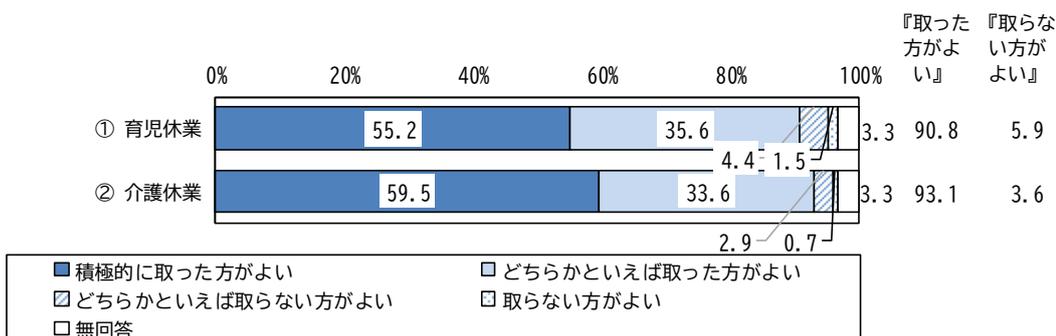
- ◆ 「育児・介護休業の制度が整っていない」が4割台で最も高く、以下「賃金の男女格差」「育児・介護休業が取得しにくい環境」「採用、昇進などにおける男女の格差」「男性が育児・介護休業をとることへの無理解」「仕事内容における男女の格差」「育児・介護施設の不足」「長時間労働」などが、あまり差がなく続きます。
- ◆ 性別で比較すると、「仕事内容における男女の格差」は男性が女性を上回り、「男性が育児・介護休業をとることへの無理解」と「家族に反対されたり、協力が得られない」は女性が男性を上回ります。



(3) 男性の育児休業・介護休業の取得について

問 25 育児や介護を行うために、育児休業や介護休業を取得できる制度があります。この制度を活用して男性が育児休業や介護休業を取ることに、あなたはどのように考えますか。(それぞれ1つに○)

- ◆男性の育児休業の取得については、「積極的に取った方がよい」が5割を超え最も高く、次いで「どちらかといえば取った方がよい」が3割台半ばとなっています。
 - ◆男性の介護休業の取得については、「積極的に取った方がよい」が約6割で最も高く、次いで「どちらかといえば取った方がよい」が3割強となっています。
- いずれも「積極的に取った方がよい」と「どちらかといえば取った方がよい」を合計した『取った方がよい』は9割を超えています。

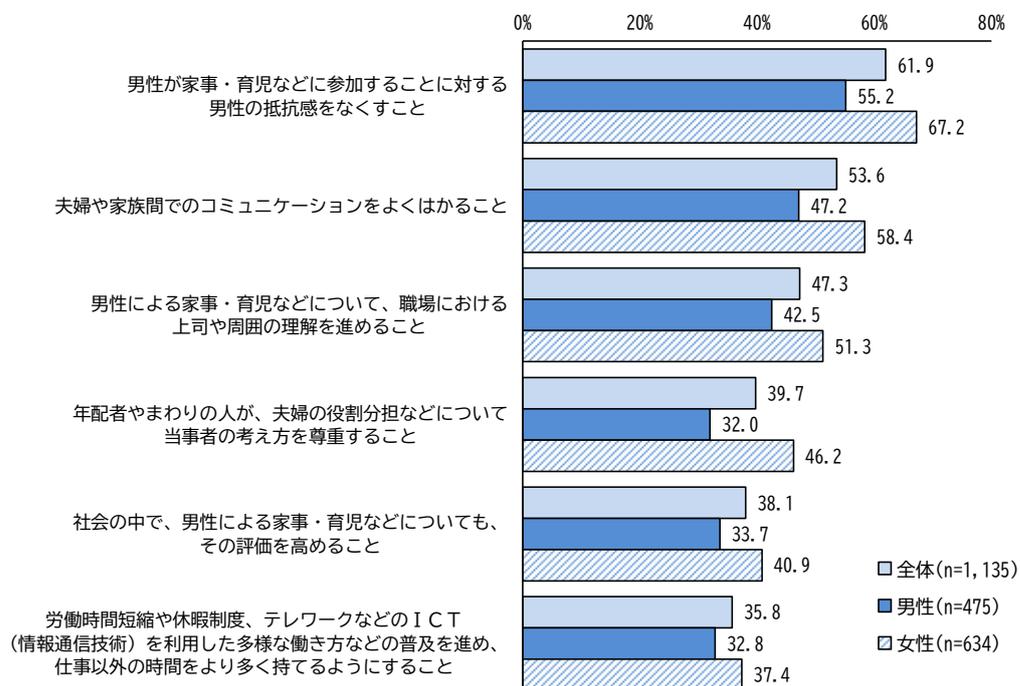


(4) 男性が家事・育児・介護・地域活動に参加するために必要なこと

問 26 今後、男性が家事、育児、介護、地域活動に積極的に参加していくためにはどのようなことが必要だと思いますか。(○はいくつでも)

- ◆「男性が家事・育児などに参加することに対する男性の抵抗感をなくすこと」で6割、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」で5割を超えています。
- ◆性別では、多くの項目で女性の割合が男性を上回ります。

男性が家事・育児・介護・地域活動に参加するために必要なこと（上位6項目・全体／性別）

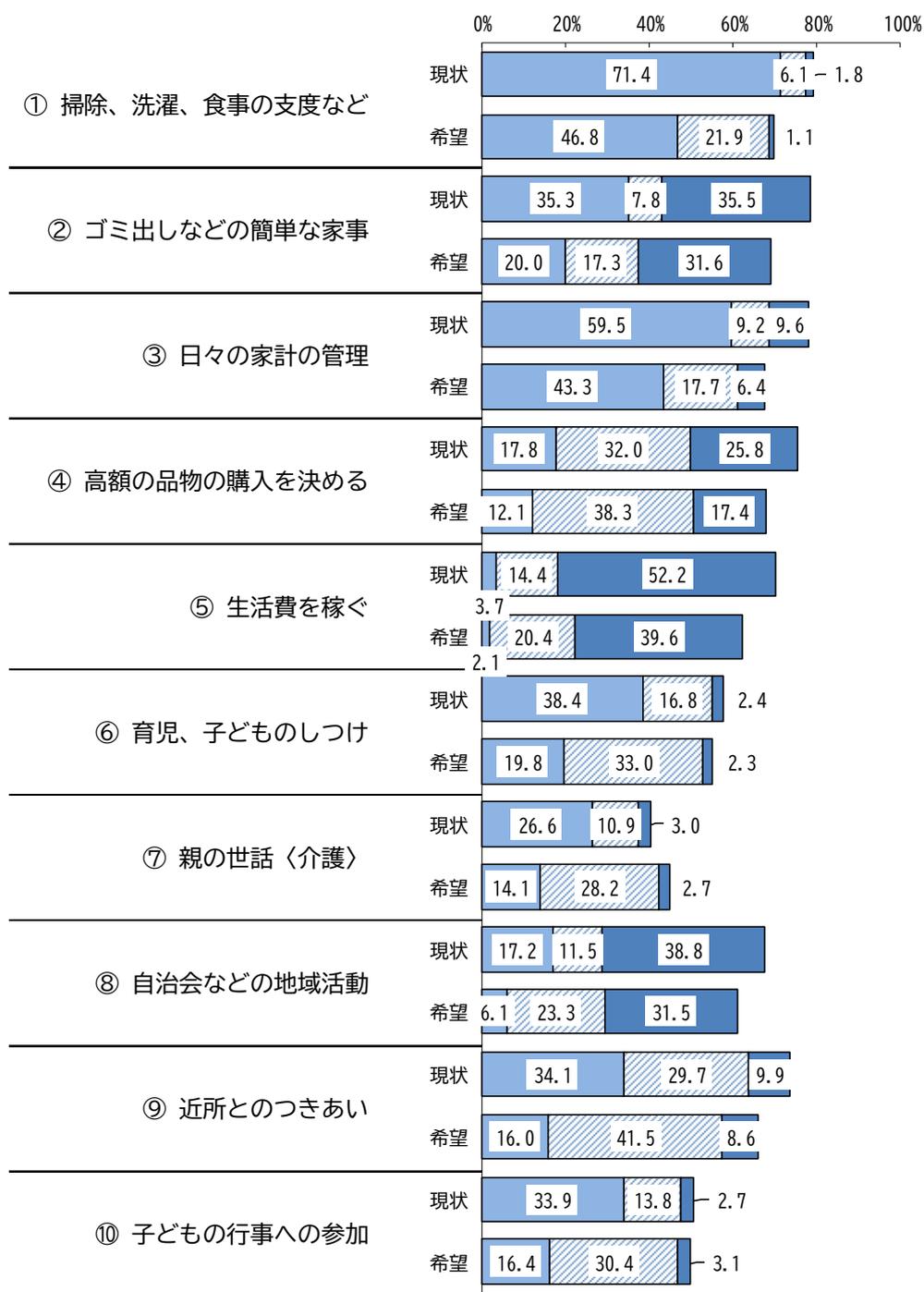


9. ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について

（1）家庭・育児・介護等の役割分担

問 27 次にあげる事柄は、主にどなたがしていますか。（それぞれ1つに○）

- ◆家事・育児等の役割分担の現状については、＜①掃除、洗濯、食事の支度など＞や＜③日々の家計の管理＞、＜⑥育児、子どものしつけ＞や＜⑩子どもの行事への参加＞は『主に妻※¹』、＜⑤生活費を稼ぐ＞や＜②ゴミ出しなどの簡単な家事＞、＜⑧自治会などの地域活動＞は『主に夫※²』の割合が高くなっています。
- ◆現状と希望を比較すると、すべての項目で「夫と妻が同じくらい」の割合は、希望が現状を上回ります。

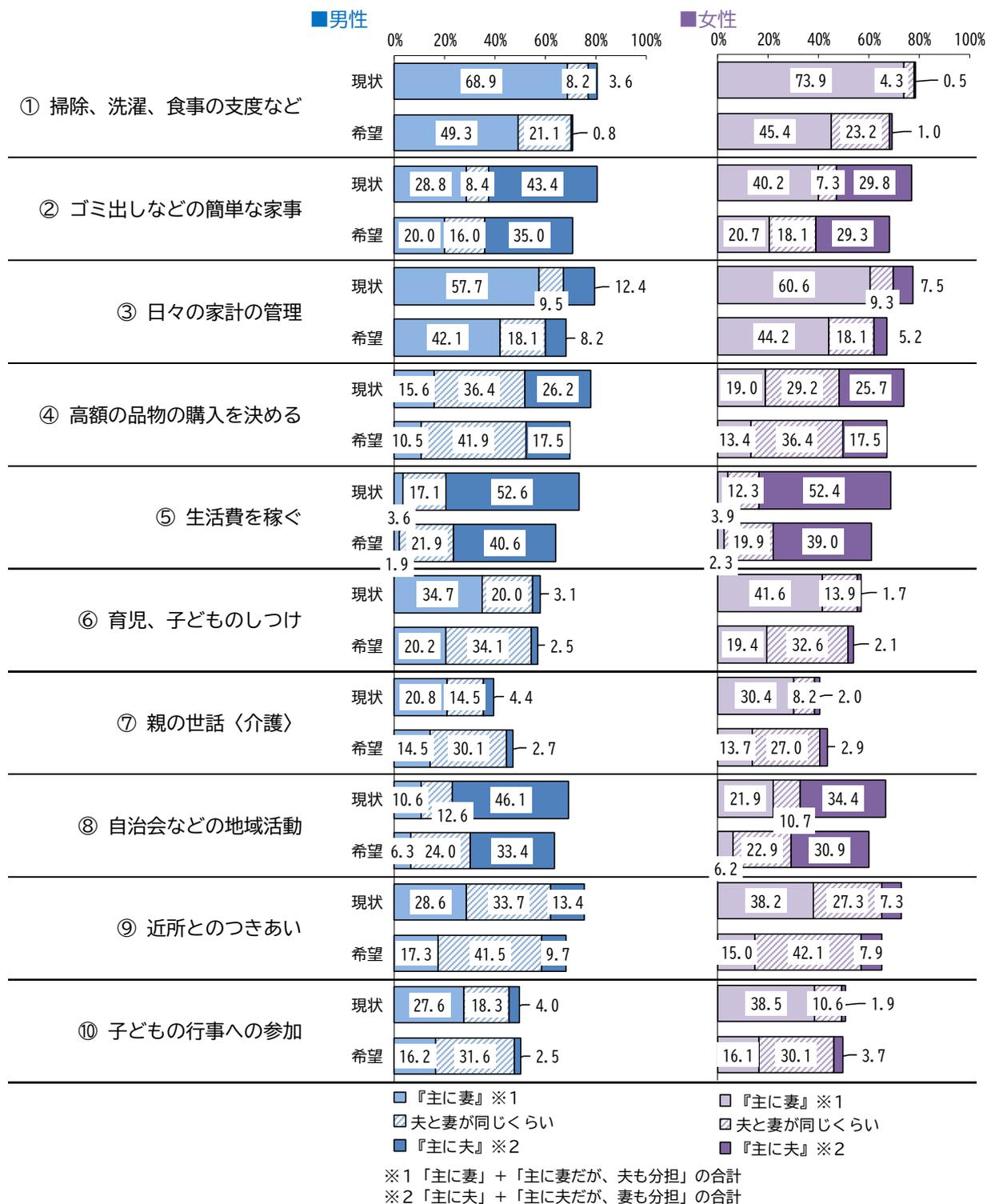


■『主に妻』※¹ ■夫と妻が同じくらい ■『主に夫』※²

※¹「主に妻」+「主に妻だが、夫も分担」の合計

※²「主に夫」+「主に夫だが、妻も分担」の合計

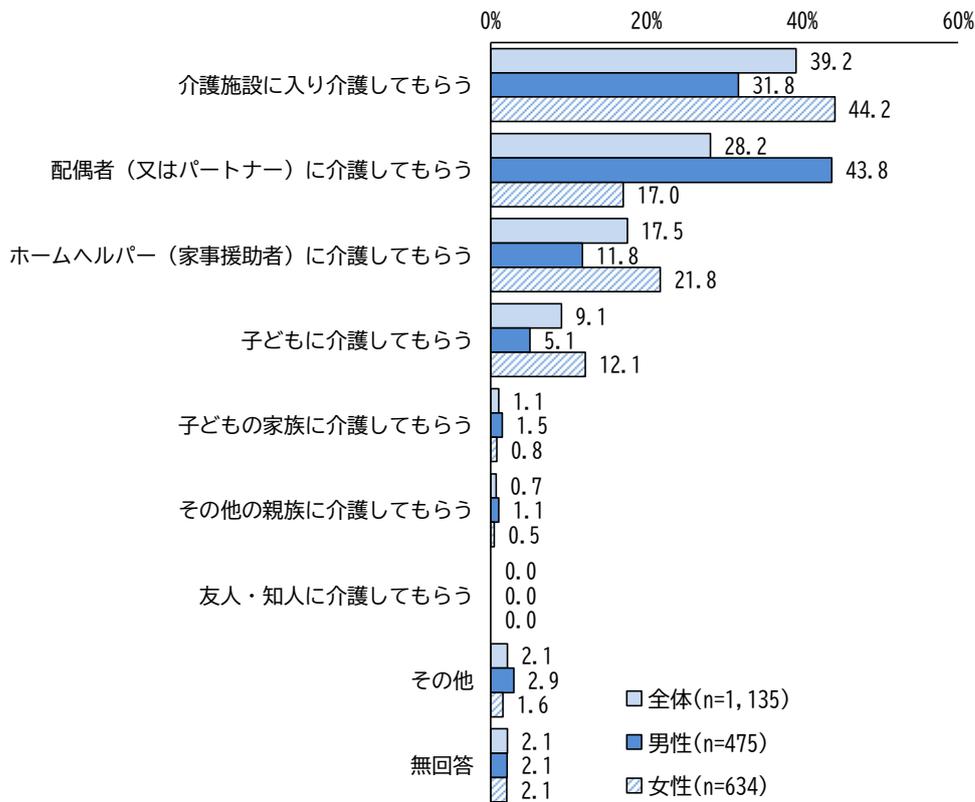
◆性別で比較すると、男女ともにすべての項目で「夫と妻が同じくらい」の割合は、希望が現状を上回ります。



(2) 介護が必要になった時に希望する介護者

問 28 あなたが、もし介護が必要になった時、誰に介護してほしいですか。(1つに○)

- ◆「介護施設に入り介護してもらおう」が約4割で最も高く、次いで「配偶者（又はパートナー）に介護してもらおう」「ホームヘルパー（家事援助者）に介護してもらおう」などの順となっています。
- ◆性別でみると、「配偶者（又はパートナー）に介護してもらおう」は男性が女性を大きく上回り、「介護施設に入り介護してもらおう」と「ホームヘルパー（家事援助者）に介護してもらおう」は女性が男性を上回ります。

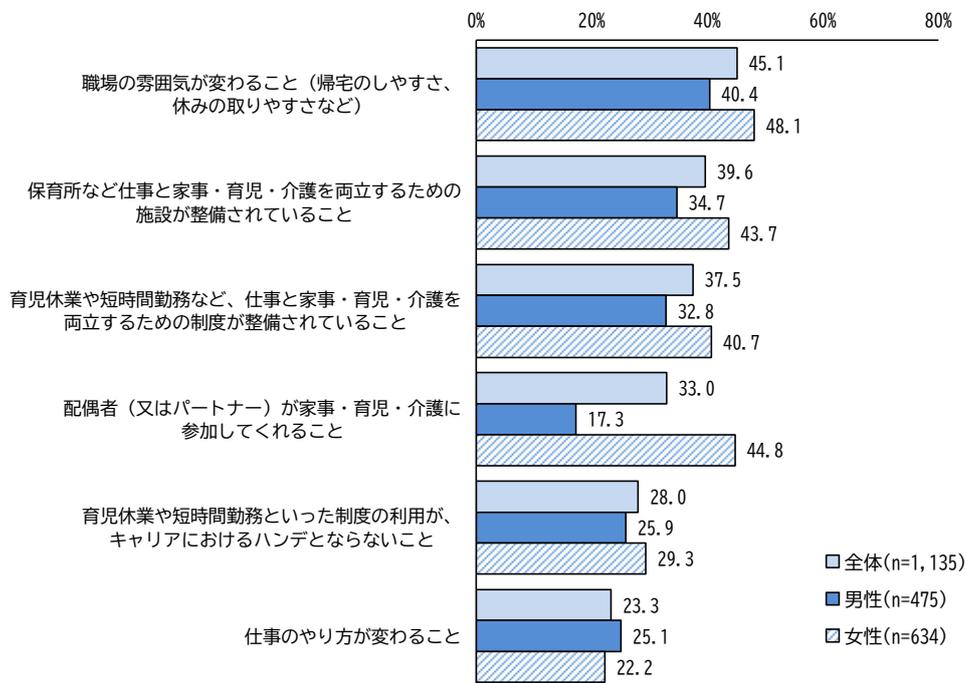


(3) ワーク・ライフ・バランスの実現に向けた職場・家庭・地域での取り組み

問 29 ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）を実現するために、職場・家庭・地域で必要だと思う取り組みは何ですか。（〇はいくつでも）

- ◆「職場の雰囲気が変わること（帰宅のしやすさ、休みの取りやすさなど）」が4割台半ばで最も高く、次いで「保育所など仕事と家事・育児・介護を両立するための施設が整備されていること」が約4割、以下「育児休業や短時間勤務など、仕事と家事・育児・介護を両立するための制度が整備されていること」「配偶者（又はパートナー）が家事・育児・介護に参加してくれること」などの順となっています。
- ◆性別で見ると、多くの項目で女性の割合が男性を上回ります。特に、「配偶者（又はパートナー）が家事・育児・介護に参加してくれること」は女性が男性を大きく上回っています。

ワーク・ライフ・バランスの実現に向けた職場・家庭・地域での取り組み（上位6項目・全体／性別）

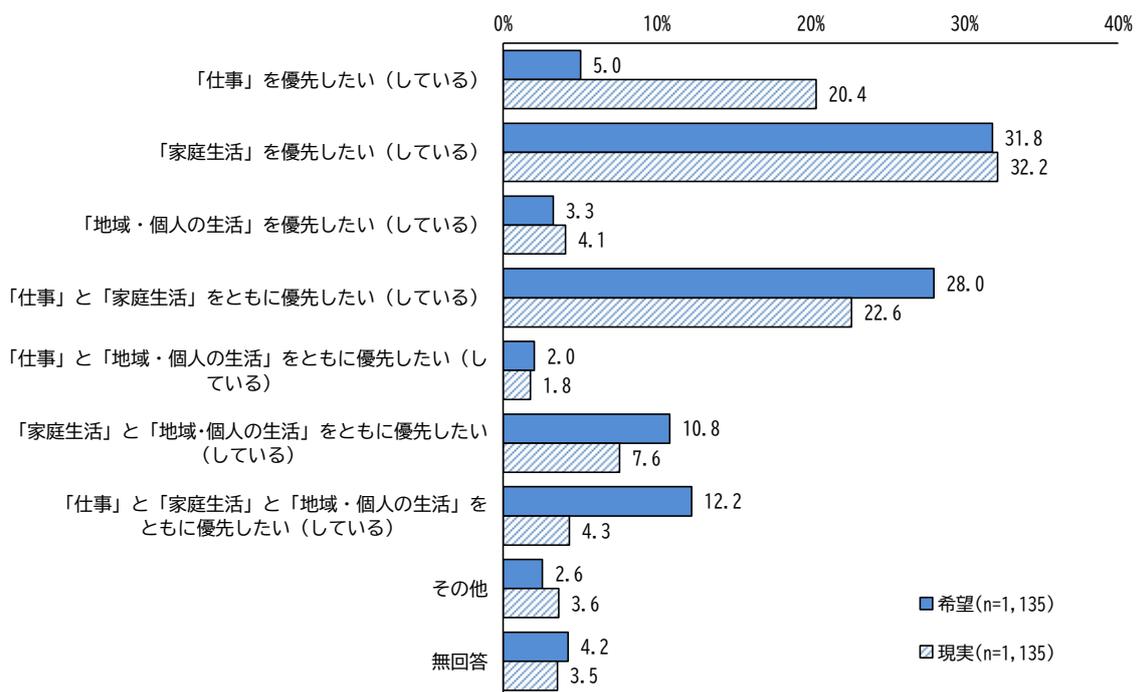


(4) ワーク・ライフ・バランスの希望と現実

問 30 生活の中での、「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度について、あなたの希望に最も近いものはどれですか。学生においては、仕事を学業とおきかえてお答えください。(1つに○)

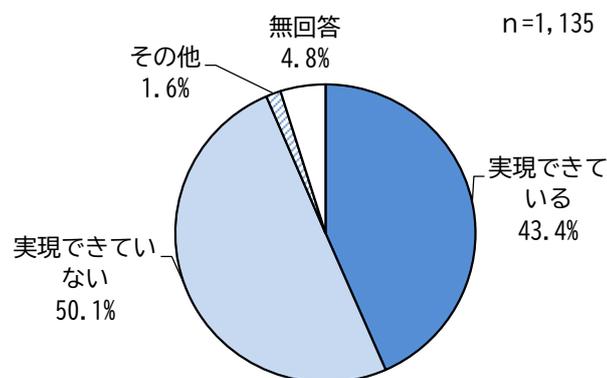
- ◆希望、現実ともに「『家庭生活』を優先したい(している)」が最も高く、次いで「『仕事』と『家庭生活』をともに優先したい(している)」の割合が高くなっています。
- ◆希望と現実を比較すると、「『仕事』を優先したい(している)」については、現実が希望を大きく上回ります。

ワーク・ライフ・バランスの希望と現実 (全体)



- ◆上記の希望、現実の回答より、ワーク・ライフ・バランスが実現できているかを算出したところ、「実現できていない」の50.1%が「実現できている」の43.4%を上回っています。

ワーク・ライフ・バランスが実現出来ているか (全体)



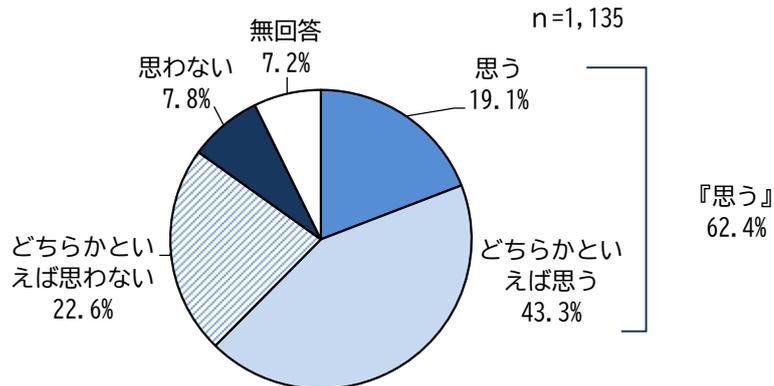
10. 性的マイノリティについて

(1) 性的マイノリティの当事者が生活しづらい社会だと思うか

問 33 現在の状況は、性的マイノリティ（またはLGBTQ+）の方々にとって、偏見や差別などにより生活しづらい社会だと思いますか。あなたの考えに最も近いものをお答えください。（1つに○）

◆「思う」と「どちらかといえば思う」を合計した『思う』は6割強となっています。

性的マイノリティの方が生活しづらい社会だと思うか（全体）



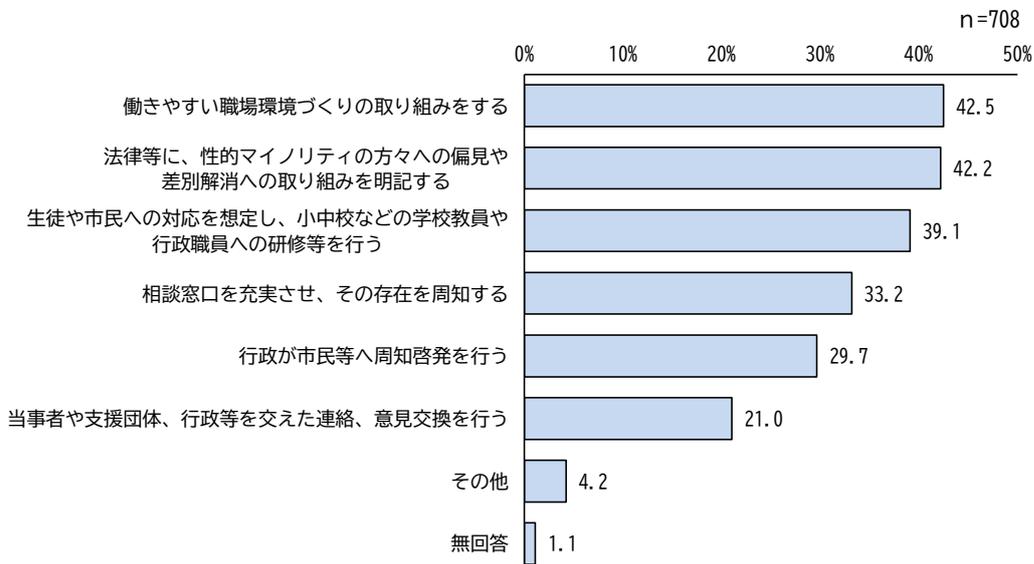
(2) 性的マイノリティの当事者が生活しやすくなるために必要な対策

問 33 で「1 思う」または「2 どちらかといえば思う」に○をつけた方にうかがいます。

問 34 性的マイノリティの方々に対する偏見や差別をなくし、性的マイノリティの方が生活しやすくなるためにどのような対策が必要だと思いますか。（○はいくつでも）

◆「働きやすい職場環境づくりの取り組みをする」と「法律等に、性的マイノリティの方々への偏見や差別解消への取り組みを明記する」がともに4割前半、「生徒や市民への対応を想定し、小中校などの学校教員や行政職員への研修等を行う」が約4割、「相談窓口を充実させ、その存在を周知する」が3割強、「行政が市民等へ周知啓発を行う」が約3割などの順となっています。

性的マイノリティの方が生活しやすくなるために必要な対策（全体）

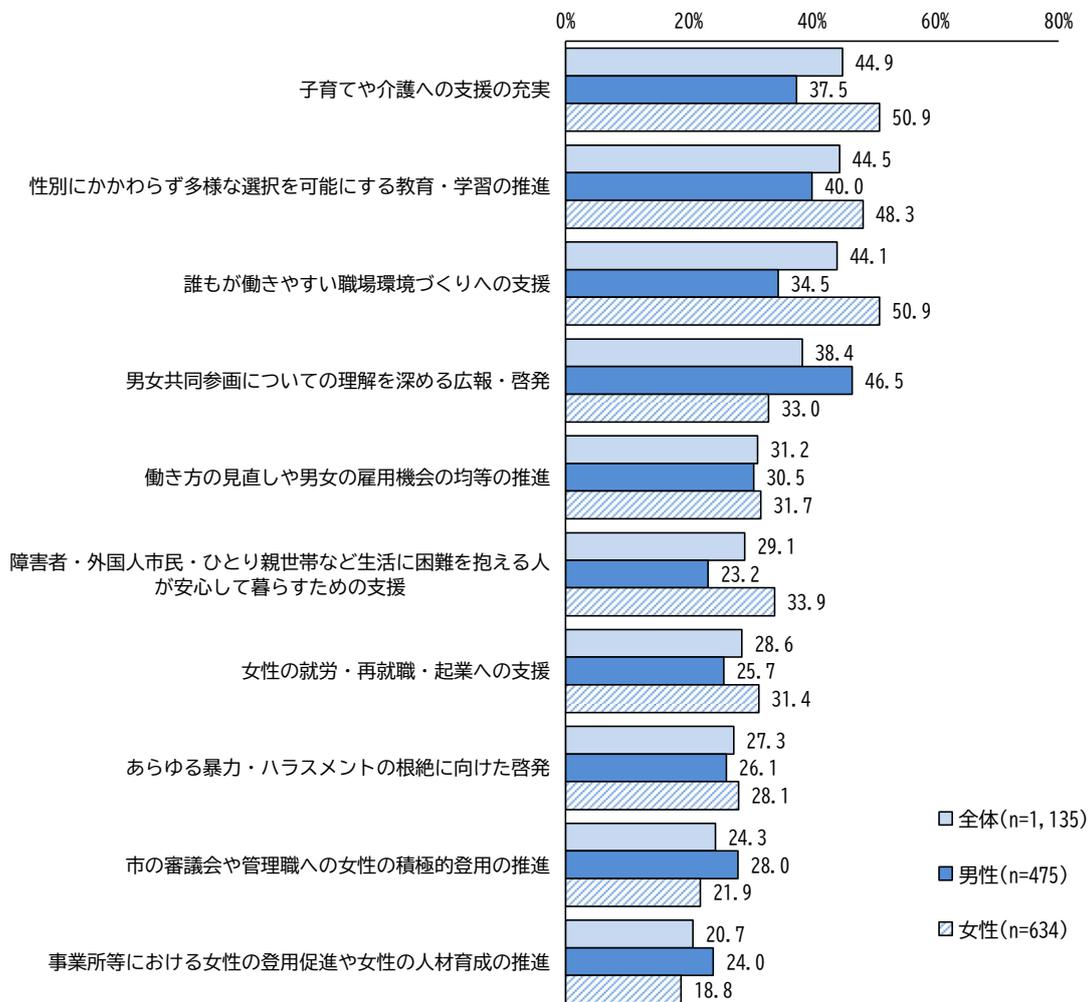


(4) 男女共同参画の実現を目指し市で取り組むべき重点項目

問 35 男女共同参画社会の実現をめざして、市では、今後どのようなことに重点を置いて取り組んだらよいと思いますか。(〇はいくつでも)

- ◆「子育てや介護への支援の充実」「性別にかかわらず多様な選択を可能にする教育・学習の推進」「誰もが働きやすい職場環境づくりへの支援」がともに4割台、「男女共同参画についての理解を深める広報・啓発」が3割台後半、「働き方の見直しや男女の雇用機会の均等の推進」と「障害者・外国人市民・ひとり親世帯など生活に困難を抱える人が安心して暮らすための支援」が約3割となっています。
- ◆性別で比較すると、「男女共同参画についての理解を深める広報・啓発」は男性が女性を上回り、「誰もが働きやすい職場環境づくりへの支援」と「子育てや介護への支援の充実」は女性が男性を上回ります。

男女共同参画の実現を目指し市で取り組むべき重点項目（上位10項目・全体/性別）



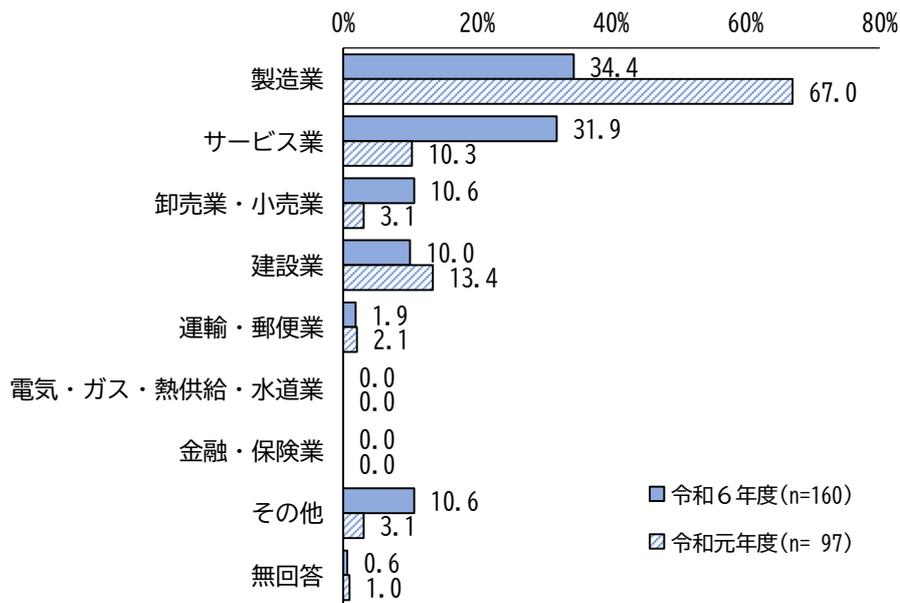
IV 事業所調査の結果

1. 現在の事業所の状況について

(1) 事業分類

- 「製造業」と「サービス業」がともに3割台前半、以下「卸売業・小売業」「建設業」の順となっています。
- 前回調査と比較すると、「製造業」の割合が低下、「サービス業」が上昇しています。

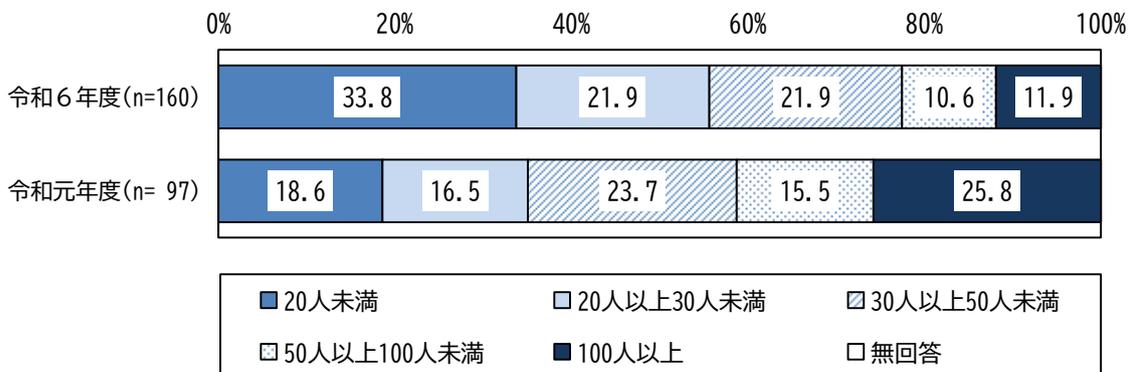
事業分類【業種】（前回調査との比較）



(2) 雇用者数

- 雇用者数の全体は、100人未満が約9割を占めています。
- 前回調査（令和元年度実施）と比較すると、「100人以上」の割合が低下、「20人未満」の割合が上昇しています。

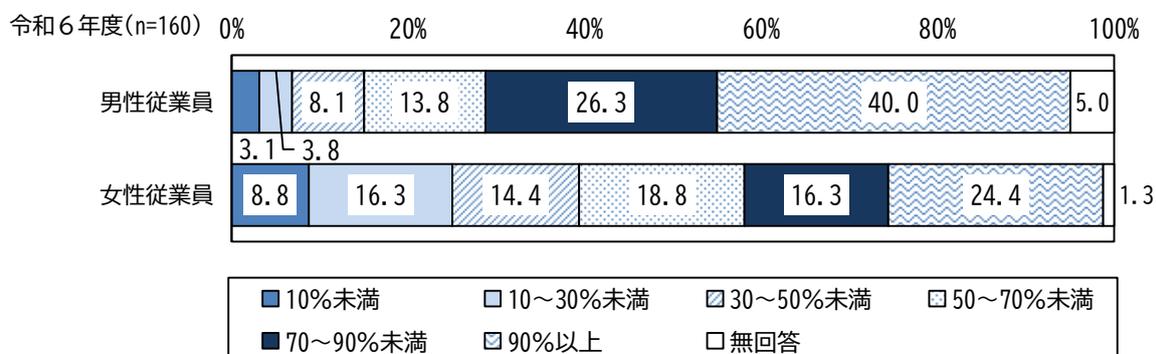
事業所における雇用者数の全体



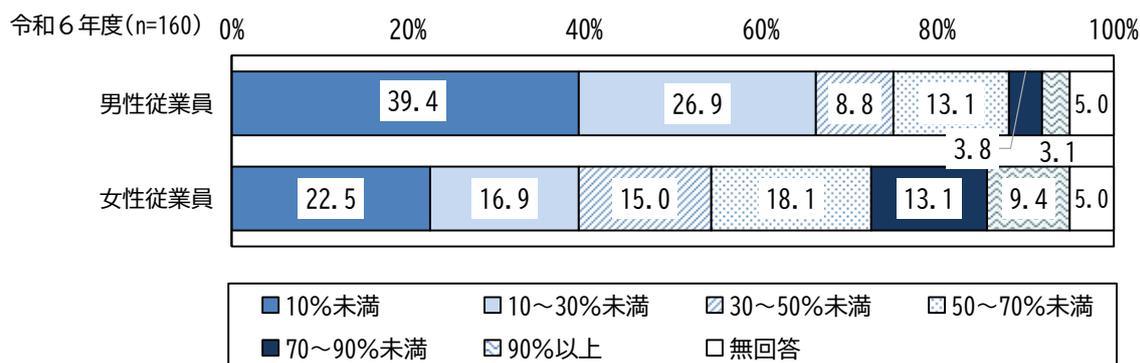
(3) 女性の就労の状況

- 多くの事業所で正社員は男性従業員に多く、非正規社員は女性従業員に多い傾向にあります。
- 正社員では平均勤続年数も男性の方が長い傾向にあります。

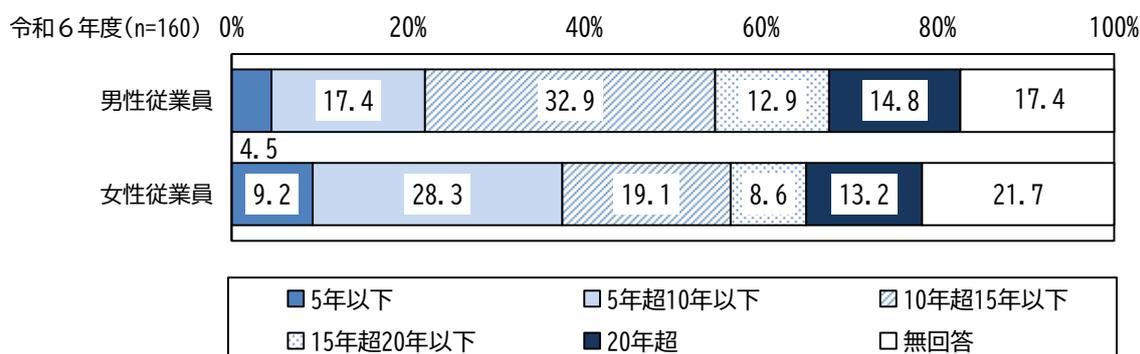
性別の雇用者総数に占める正社員の割合



性別の雇用者総数に占める非正規社員の割合



性別の平均勤続年数（正社員）

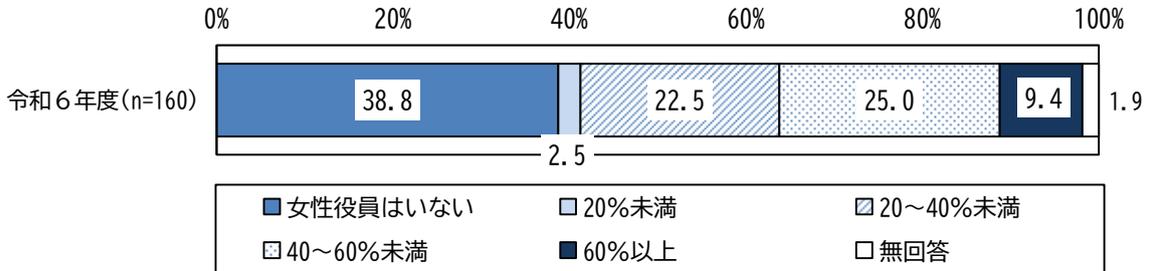


2. 女性の活躍推進・管理職登用について

(1) 女性役員・女性管理職の状況

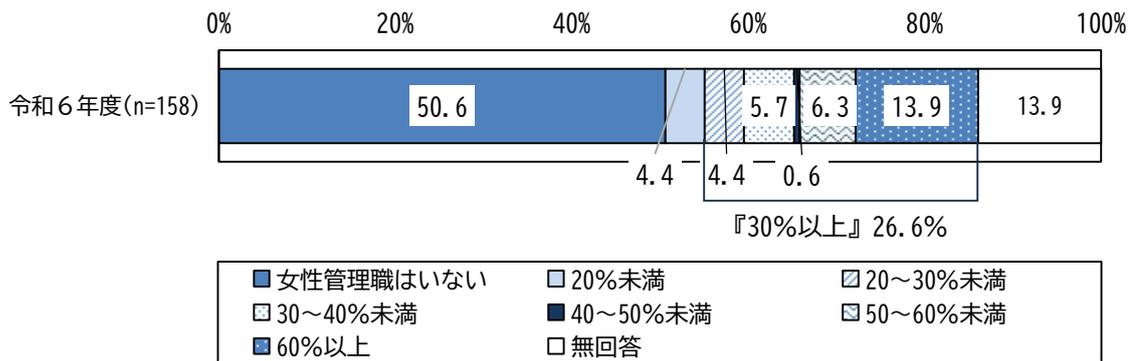
① 役員に占める女性の割合

● 記入された役員数及び役員に占める女性人数より割合を算出したところ、「女性役員はいない」が最も高く、以下「40～60%未満」「20～40%未満」の順となっています。



② 管理職（部・課長級）に占める女性の割合

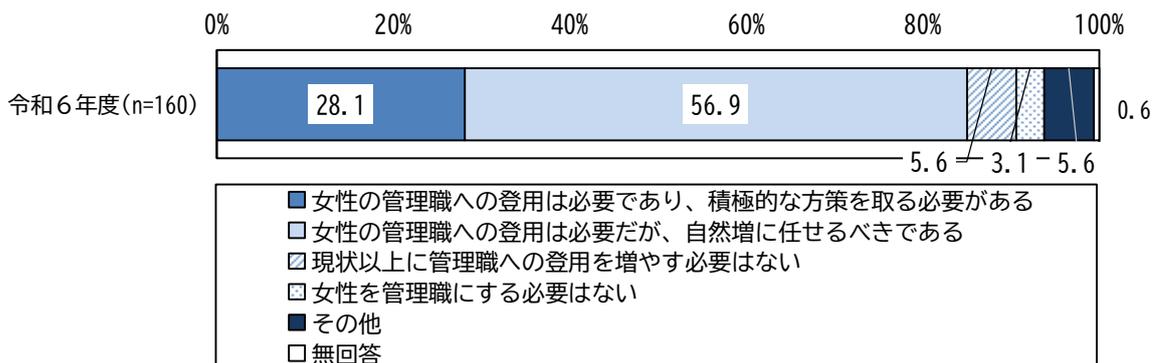
● 記入された管理職数及び管理職に占める女性人数より割合を算出したところ、「女性管理職はいない」が約半数で最も高くなっています。国が目標に掲げる『30%以上』は、全体の26.6%となっています。



(2) 女性職員を管理職に登用することへの考え方

問7 女性を管理職に登用することについてどのようにお考えですか。（貴事業所の見解に近い考え1つに○）

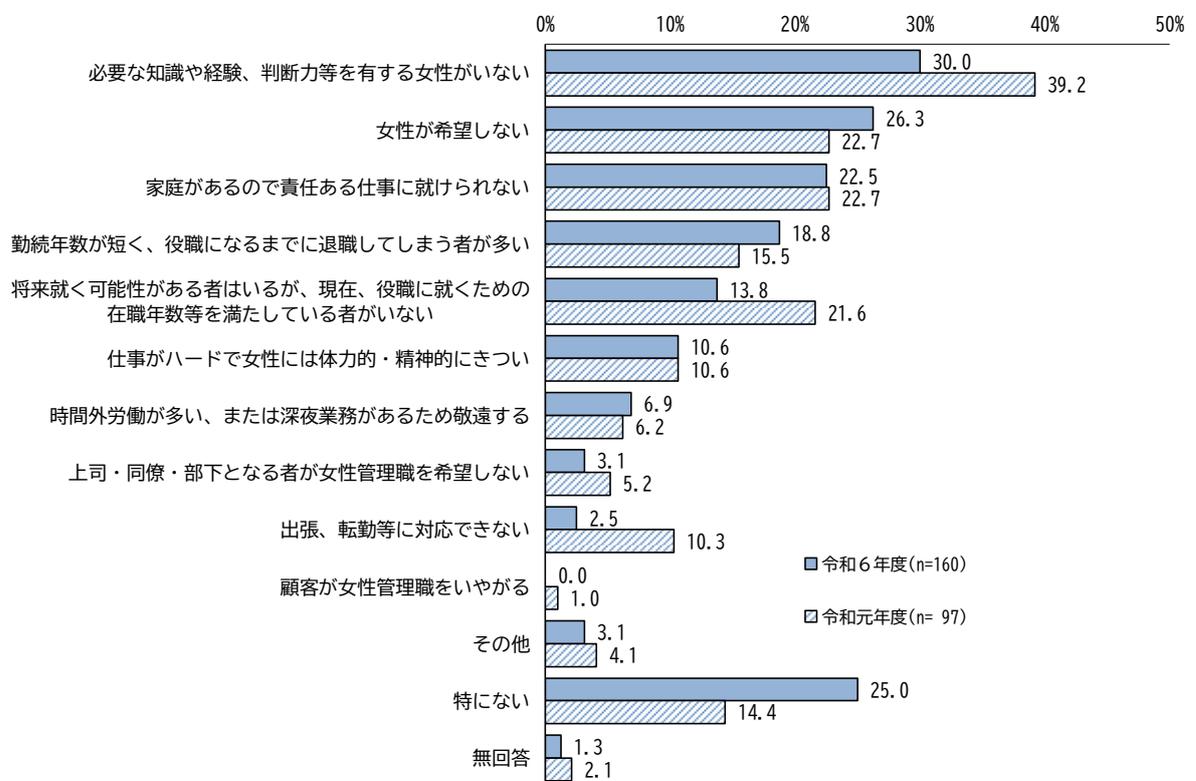
● 「女性の管理職への登用は必要だが、自然増に任せるべきである」が5割台後半で最も高く、次いで「女性の管理職への登用は必要であり、積極的な方策を取る必要がある」が2割台後半となっています。



(3) 女性の管理職への登用を増やすための課題

問8 貴事業所で女性の管理職への登用を増やすことについて、どのような課題がありますか。
(〇はいくつでも)

- 「必要な知識や経験、判断力等を有する女性がない」が3割で最も高く、以下「女性が希望しない」と「家庭があるので責任ある仕事に就けられない」が2割台、「勤続年数が短く、役職になるまでに退職してしまう者が多い」や「将来就く可能性がある者はあるが、現在、役職に就くための在職年数等を満たしている者がない」などの順となっています。
- 前回調査と比較すると、「必要な知識や経験、判断力等を有する女性がない」や「将来就く可能性がある者はあるが、現在、役職に就くための在職年数等を満たしている者がない」の割合が低下、「特にない」が上昇しています。

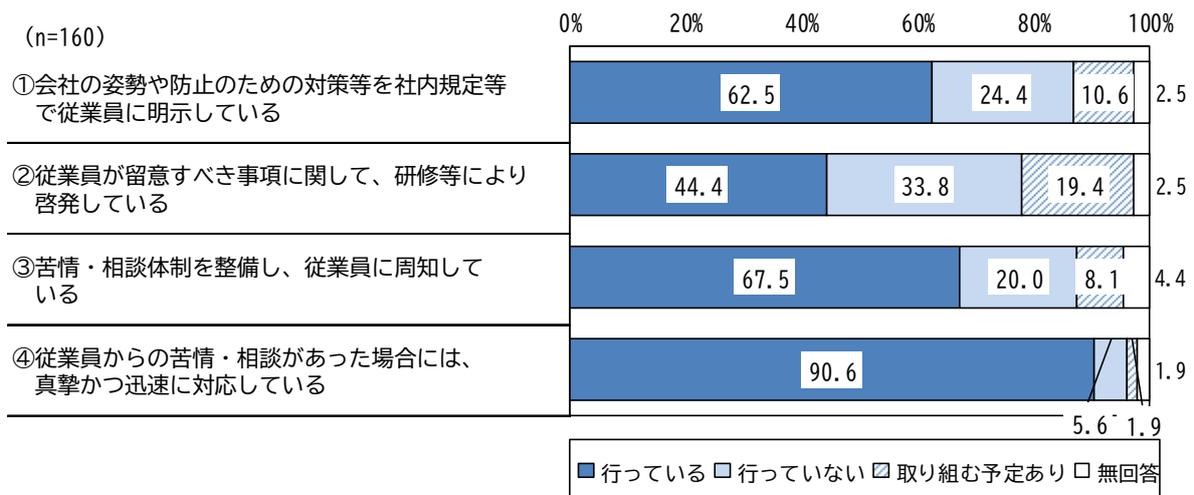


3. 各種ハラスメント対策について

(1) 職場における各種ハラスメント対策

問 10 職場におけるセクシュアルハラスメントやパワーハラスメント等の各種ハラスメント対策について、あてはまるものを選んでください。(それぞれ1つに○)

● 「行っている」は、<④従業員からの苦情・相談があった場合には、真摯かつ迅速に対応している>が約9割で最も高く、次いで<③苦情・相談体制を整備し、従業員に周知している>、<①会社の姿勢や防止のための対策等を社内規定等で従業員に明示している>が6割台となっています。

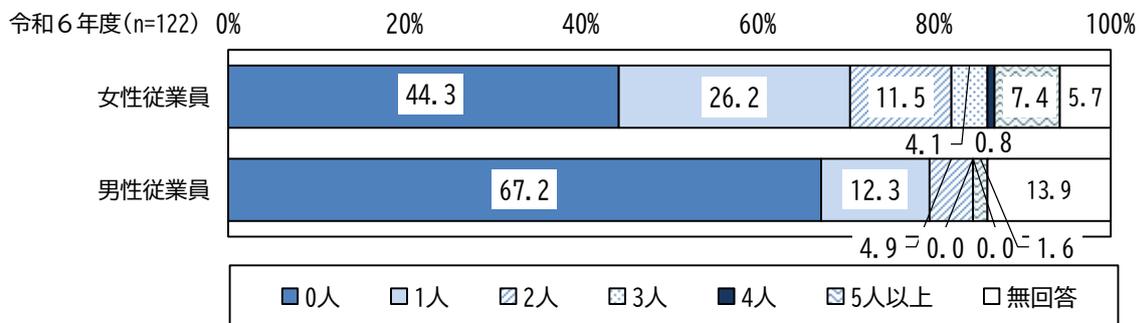


4. 育児・介護休業制度について

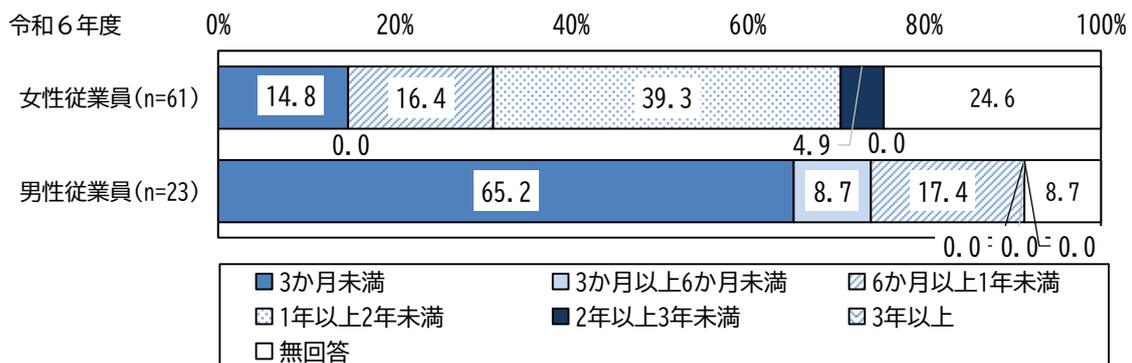
(1) 育児休業の取得状況

- 女性従業員に比べ、男性従業員では育児休業の取得人数が少ない傾向にあります。
- 平均取得期間についても、女性従業員に比べ男性従業員で期間が短い傾向にあります。

育児休業の取得状況（令和3～5年度の取得者数）



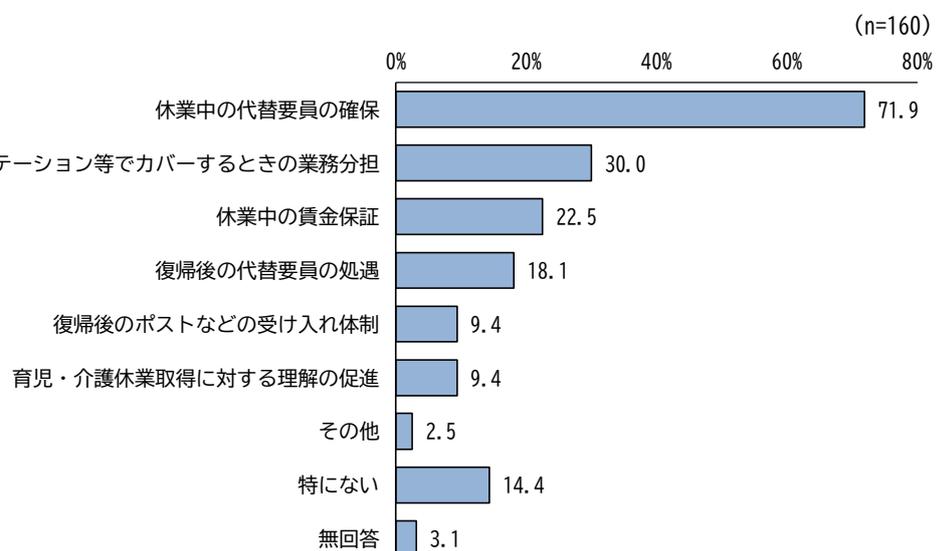
育児休業の取得状況（令和3～5年度の取得者数）



(2) 育児・介護休業制度が定着するための主な課題

問 13 従業員に対して育児休業や介護休業制度を定着させる上で、特に課題となっていることは何ですか。（○は2つまで）

- 「休業中の代替要員の確保」が7割を超え最も高くなっています。

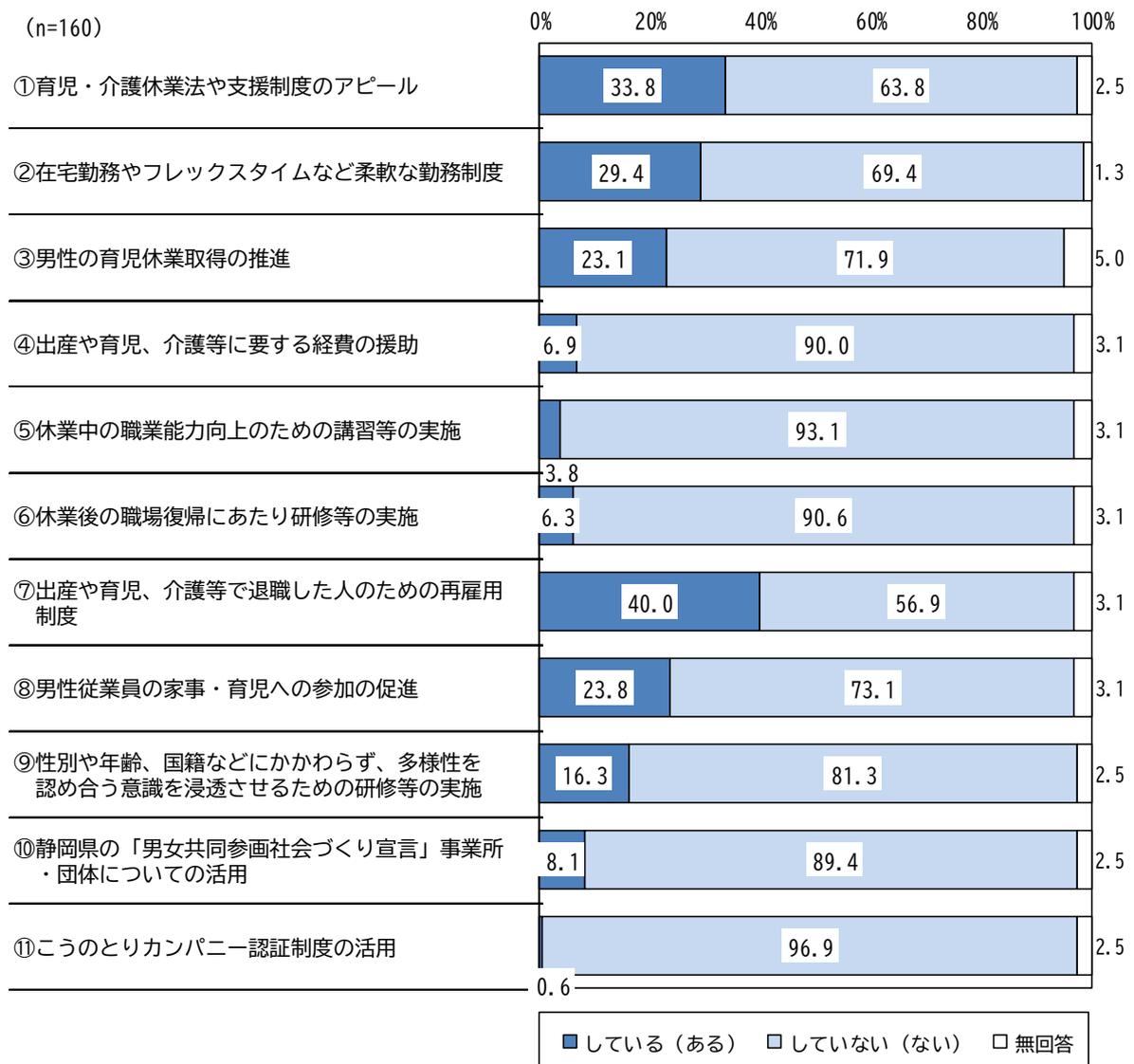


5. 仕事と家庭の両立支援について

(1) 仕事と家庭の両立支援として実施しているもの

問 14 仕事と家庭の両立支援として実施しているものはありますか。(それぞれ1つに○)

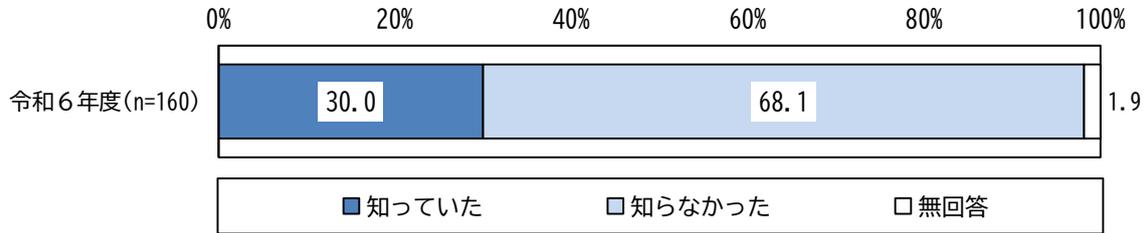
- 「している (ある)」は、<⑦出産や育児、介護等で退職した人のための再雇用制度>が4割で最も高く、次いで<①育児・介護休業法や支援制度のアピール>や<②在宅勤務やフレックスタイムなど柔軟な勤務制度>が3割程度となっています。



(2) 静岡県「男女共同参画社会づくり宣言」の認知

問 15 あなたは、問 14 の⑩に記載されている、静岡県の「男女共同参画社会づくり宣言」をご存じでしたか。(〇は1つ)

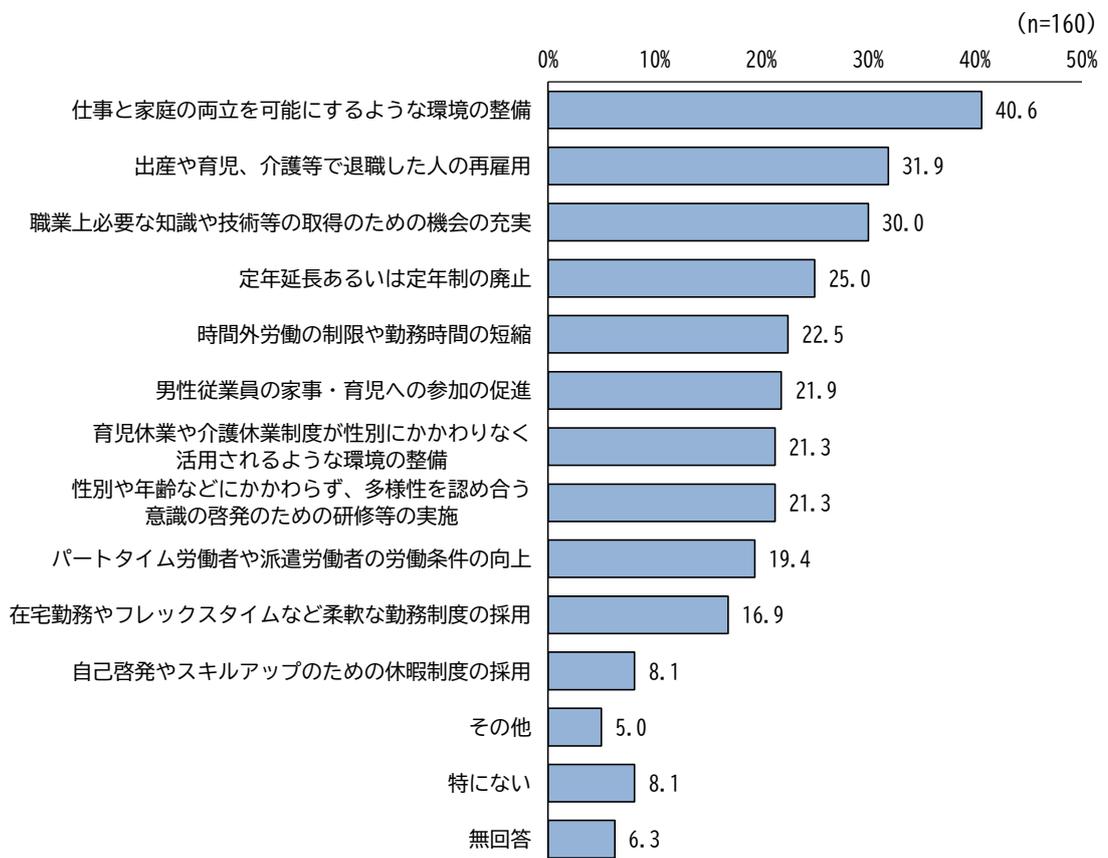
● 「知らなかった」が「知っていた」が大きく上回っています。



(3) 誰もが働きやすい職場環境整備に必要なこと

問 16 性別にかかわらず、誰もが働きやすい職場環境をつくるためには、どのようなことが必要だとお考えですか。(〇はいくつでも)

● 「仕事と家庭の両立を可能にするような環境の整備」が約4割で最も高く、次いで「出産や育児、介護等で退職した人の再雇用」と「職業上必要な知識や技術等の取得のための機会の充実」が3割台で続きます。

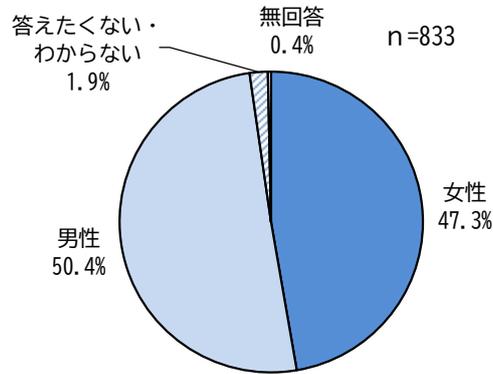


V 市民意識調査（中学生）の結果

1. 回答者の属性

■ 回答者の性別は、男性が約5割、女性が4割台後半です。「答えたくない・わからない」は市民意識調査より多い1.9%（16人）となっています。

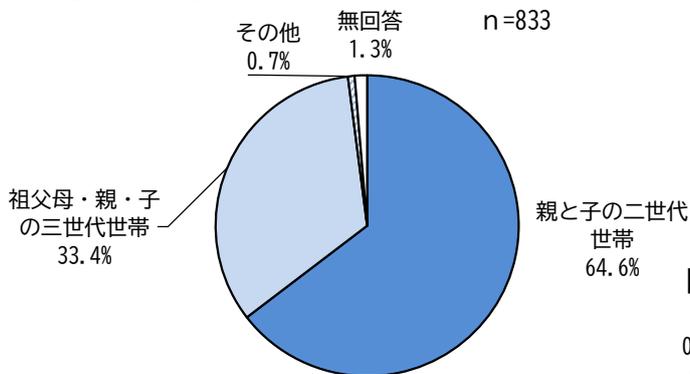
【性別】



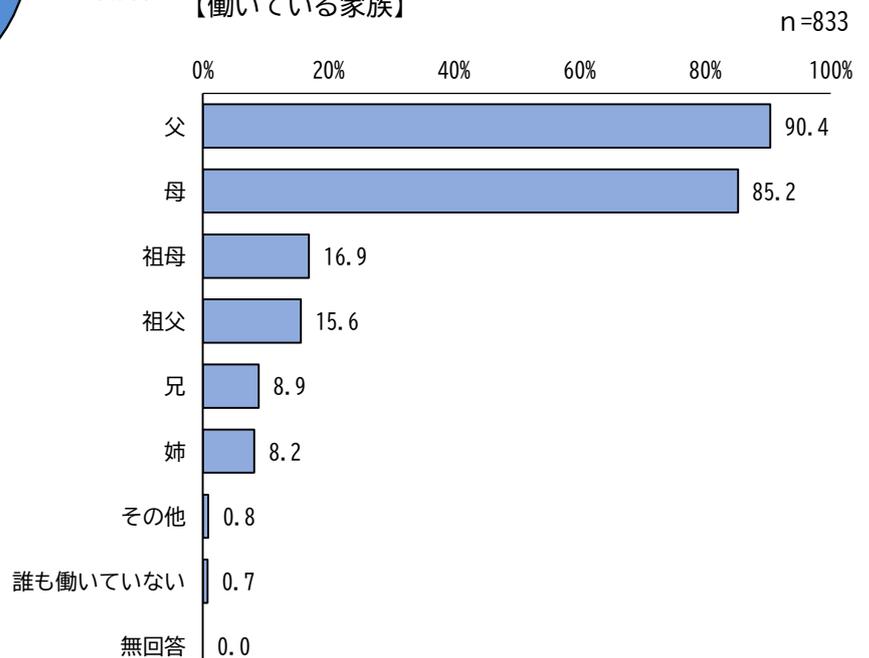
■ 家族構成は「親と子の二世帯世帯」が6割台半ば、「祖父母・親・子の三世帯世帯」が3割台、となっています。

■ 働いている家族については、「父」が約9割、「母」も8割台半ばと共働き世帯が多い傾向にあります。

【家族構成】



【働いている家族】

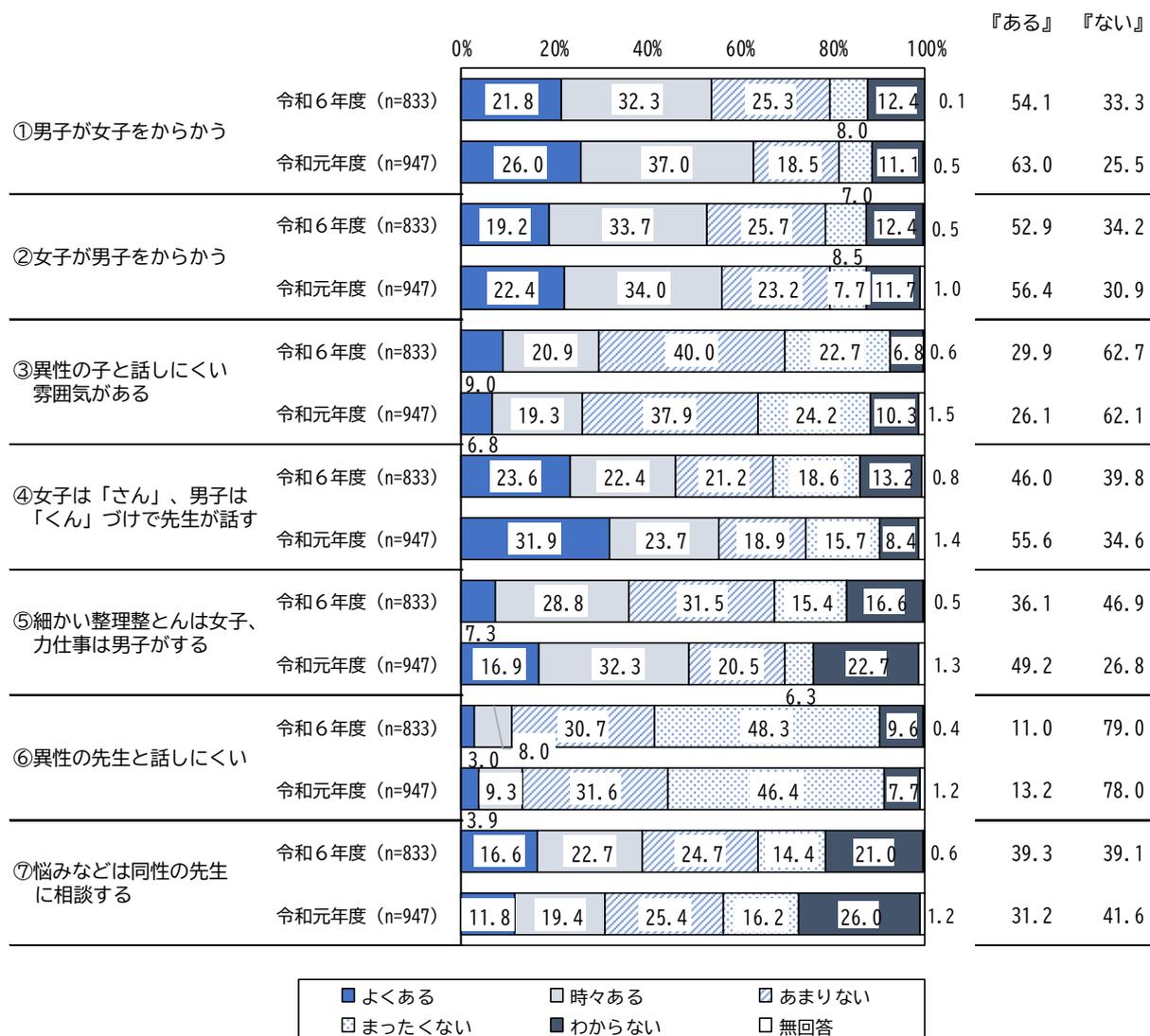


2. 学校生活での平等感について

(1) 学校またはクラスであること

問4 あなたの学校、または、クラスで、次の項目についてどのようですか。(それぞれ1つに○)

- 全体では、<③異性の子と話にくい雰囲気がある>を除き、いずれの項目も「時々ある」が最も高くなっています。「ある」と「時々ある」を合計した『ある』は、<①男子が女子をからかう>と<②女子が男子をからかう>で5割を超えています。
- 前回調査と比較すると、多くの項目で「あまりない」「まったくない」を上昇しています。『ない』は<⑤細かい整理整頓は女子、力仕事は男子がする>で大きく上昇しています。反対に<⑦悩みなどは同性の先生に相談する>は『ある』が上昇となっています。



3. 家庭生活について

(1) 家庭・育児・介護等の役割分担

- 「母」は<⑥育児、子どものしつけ>、<③日々の家計の管理>や<①掃除、洗濯、食事の支度など>で6割を超え高くなっています。「父」は<⑤生活費を稼ぐ>で6割台、<②ゴミ出しなどの簡単な家事>で3割台となっています。
- 前回調査と比較すると、「母」は<①掃除、洗濯、食事の支度など>や<③日々の家計の管理>で低下、<④高額の商品の購入を決める>で上昇しています。「父」は<②ゴミ出しなどの簡単な家事>などで上昇がみられます。また、多くの項目で「みんなで協力して」の割合が上昇しており、特に<①掃除、洗濯、食事の支度など>では大きく上昇しています。

問12 主にしている人

単位：%

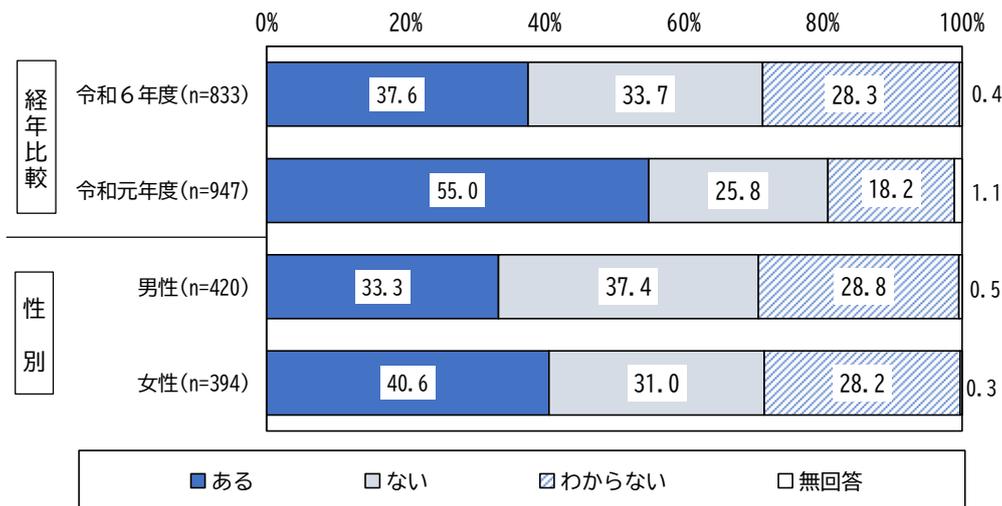
		あなた自身	母	父	祖母	祖父	姉妹	兄弟	みんなで協力して	その他	誰もしていない	無回答
①掃除、洗濯、食事の支度など	令和6年度(n=833)	2.8	64.5	3.8	5.4	0.2	0.2	0.4	21.6	0.4	0.1	0.6
	令和元年度(n=947)	4.1	70.3	3.2	7.3	0.0	0.2	0.6	12.0	1.3	0.5	0.4
②ゴミ出しなどの簡単な家事	令和6年度(n=833)	9.5	29.3	32.4	5.5	4.0	1.2	1.4	15.6	0.5	0.0	0.6
	令和元年度(n=947)	13.3	33.7	27.9	6.5	4.0	0.6	1.5	11.2	1.0	0.1	0.2
③日々の家計の管理	令和6年度(n=833)	1.6	64.8	14.2	4.3	0.6	0.1	0.0	8.2	1.7	3.6	1.0
	令和元年度(n=947)	1.4	70.6	10.1	5.2	0.5	0.1	0.0	5.2	4.3	1.9	0.6
④高額の商品の購入を決める	令和6年度(n=833)	3.5	40.6	28.6	1.3	0.4	0.1	0.1	15.8	1.4	7.0	1.2
	令和元年度(n=947)	4.4	33.4	37.9	1.9	0.5	0.0	0.1	11.5	3.7	6.1	0.4
⑤生活費を稼ぐ	令和6年度(n=833)	1.4	15.2	63.1	0.4	0.1	0.0	0.1	16.4	1.6	0.5	1.1
	令和元年度(n=947)	0.5	17.2	65.2	1.4	1.0	0.2	0.2	9.0	4.1	0.8	0.4
⑥育児、子どものしつけ	令和6年度(n=833)	3.4	68.1	5.4	1.3	0.5	0.1	0.1	12.2	1.1	6.8	1.0
	令和元年度(n=947)	1.6	69.2	7.3	3.1	0.3	0.2	0.3	9.7	2.3	5.5	0.5
⑦親の世話(介護)	令和6年度(n=833)	3.7	16.7	5.5	2.8	0.7	0.5	1.0	10.6	1.7	54.7	2.2
	令和元年度(n=947)	4.6	14.8	3.2	2.4	0.4	1.5	1.4	14.4	4.4	51.3	1.6
⑧自治会などの地域活動	令和6年度(n=833)	4.7	19.7	26.1	7.4	4.6	0.2	0.1	13.2	1.9	20.5	1.6
	令和元年度(n=947)	7.0	17.6	25.6	5.0	6.5	0.5	0.3	14.7	3.9	18.0	1.0
⑨近所とのつきあい	令和6年度(n=833)	6.6	30.4	13.9	13.4	4.4	0.1	0.6	19.7	2.2	7.1	1.6
	令和元年度(n=947)	4.5	32.1	10.5	13.5	3.3	0.1	0.3	24.8	3.0	7.6	0.3
⑩子どもの行事への参加	令和6年度(n=833)	13.9	42.1	9.5	1.2	0.5	0.7	1.4	14.4	1.3	13.9	1.0
	令和元年度(n=947)	22.3	37.6	6.9	1.3	0.3	1.8	1.9	14.9	2.1	10.0	1.0

4. 「女らしさ」「男らしさ」などについて

(1) 女・男「らしく、なのに、のくせに」と言われたことの有無

問 13 あなたは、女・男「らしく、なのに、のくせに」と言われたことがありますか。(1つに○)

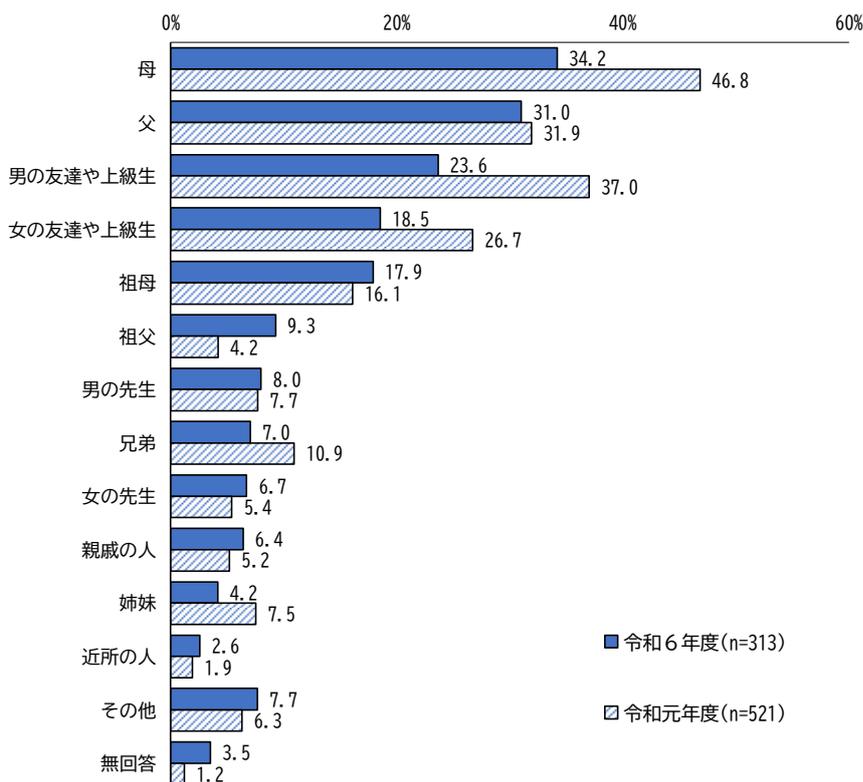
- 「ある」が3割台後半、「ない」が3割強、「わからない」が2割台後半となっています。
- 前回調査と比較すると、「ある」が大きく低下、「ない」や「わからない」が上昇しています。
- 性別にみると、「ある」は女性が男性を上回り、「ない」は男性が女性を上回ります。



(2) 女・男「らしく、なのに、のくせに」と言う人

問 13-2 女・男「らしく、なのに、のくせに」と言う人は誰ですか。(○はいくつでも)

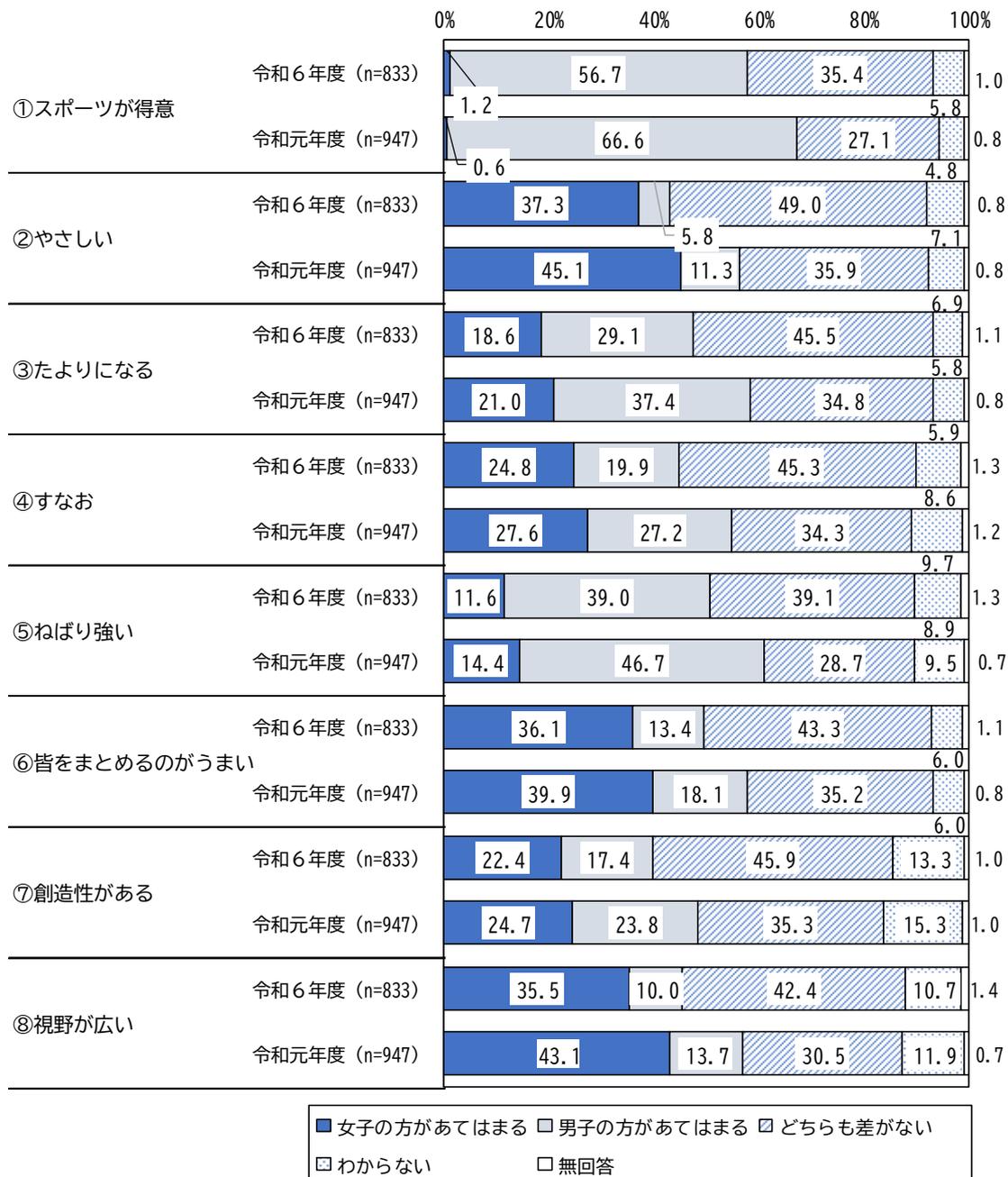
- 「母」「父」「男の友達や上級生」「女の友達や上級生」「祖母」などの順となっています。
- 前回調査と比較すると、「母」や「男の友達や上級生」「女の友達や上級生」は大きく低下しています。



(3) あてはまると思う性別

問 15 次のことについてどのように思いますか。あてはまるものを選んでください。(それぞれ1つに○)

- 「女子の方があてはまる」は、<②やさしい>、<⑥皆をまとめるのがうまい>や<⑧視野が広い>などで、3割台後半となっています。「男子の方があてはまる」は、<①スポーツが得意>が5割台半ばと他の項目を大きく上回ります。
- 前回調査と経年すると、「女子の方があてはまる」「男子の方があてはまる」はいずれの項目も減少傾向にあり、「どちらも差がない」の割合が上昇しています。

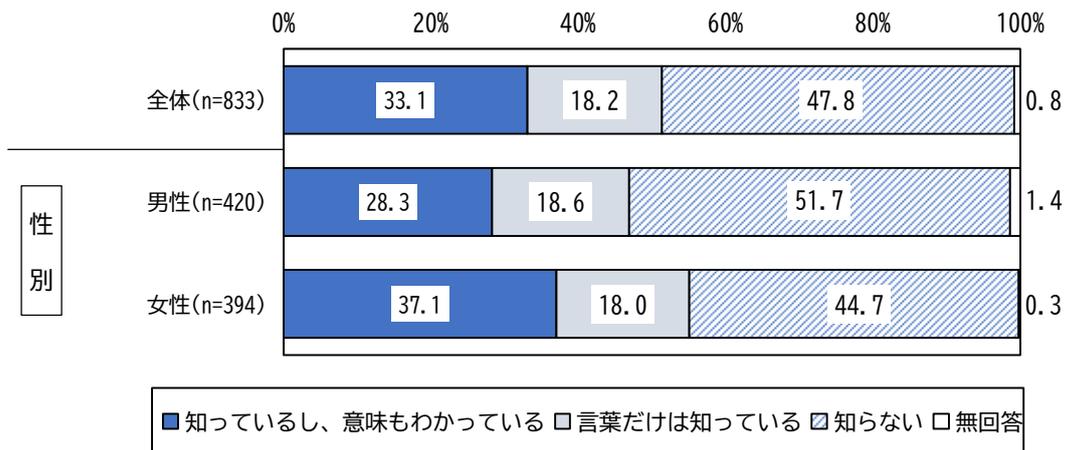


5. 性的マイノリティについて

(1) 性的マイノリティ（またはLGBTQ+）の認知

問 17 あなたは性的マイノリティ（またはLGBTQ+）という言葉を知っていますか。（1つに○）

- 「知らない」が4割台後半で最も高く、次いで「知っているし、意味もわかっている」が3割台前半、「言葉だけは知っている」が2割弱となっています。
- 性別にみると、「知っているし、意味もわかっている」は女性が男性を上回ります。



【用語解説】

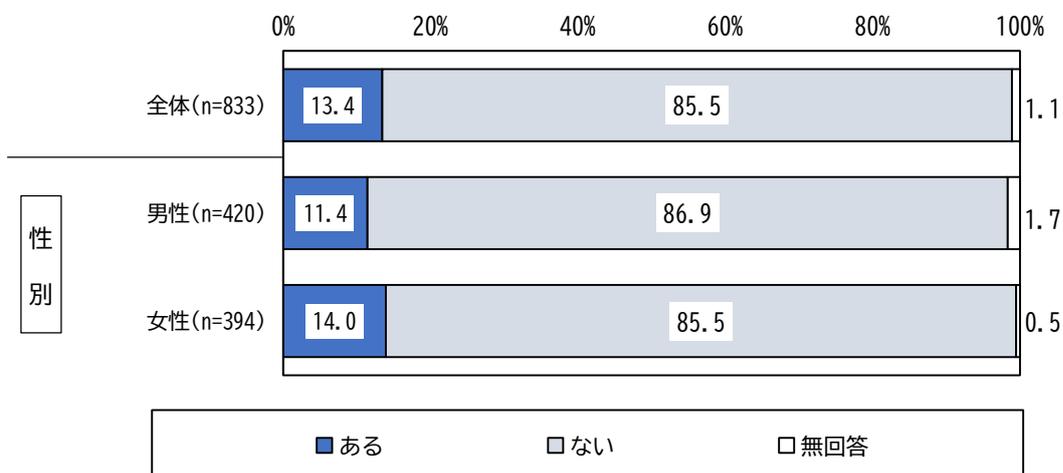
※性的マイノリティ

同性に対して、あるいは男女両方に恋愛感情をもつ人や、自分に割り当てられた性別に違和感がある人などのことをいい、「セクシュアルマイノリティ」「性的少数者」ともいう。

(2) 性的指向や性自認で悩んだ経験の有無

問 18 あなたは好きになる相手の性別（性的指向）や自分自身が認識している性別（性自認）について悩んだことがありますか。（1つに○）

- 「ある」が13.4%（112人）、「ない」が85.5%となっています。

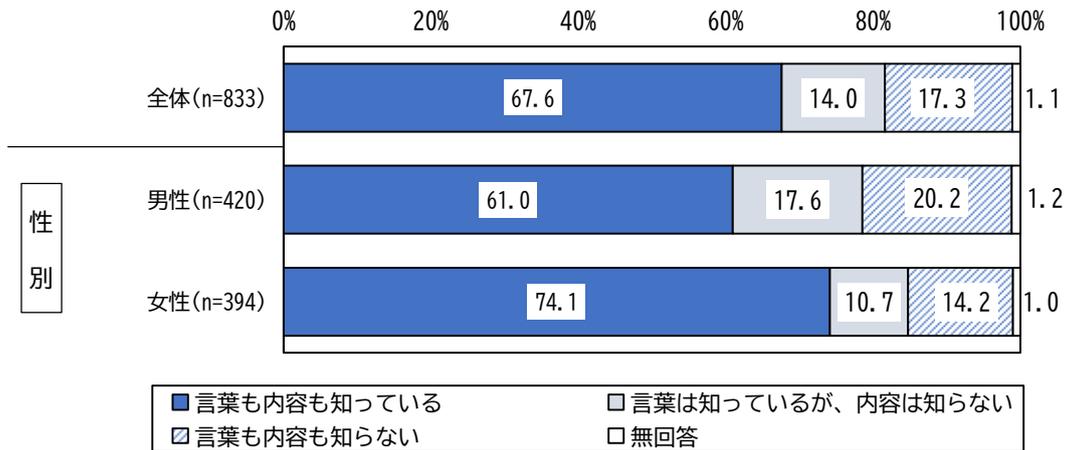


6. デートDVについて

(1) DV（ドメスティック・バイオレンス）の認知

問 20 あなたは「DV（ドメスティック・バイオレンス）」という言葉を知っていますか。（1つに○）

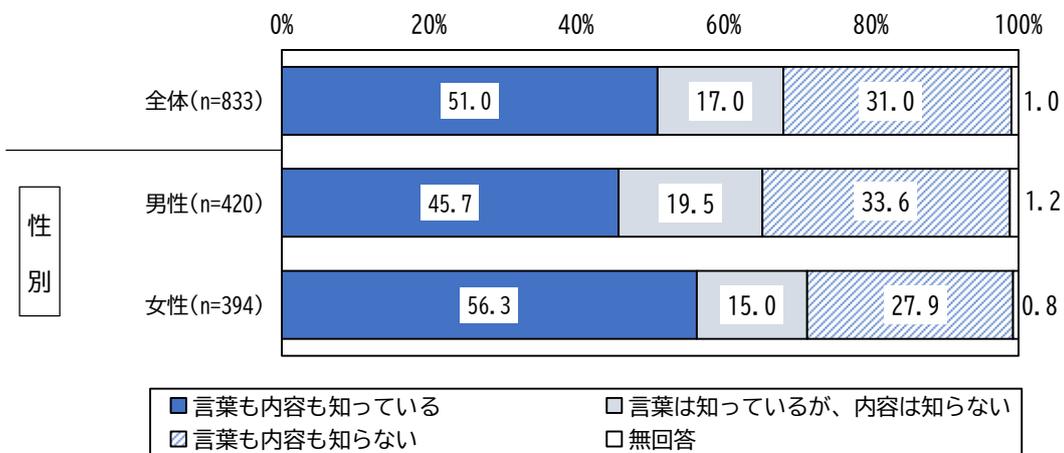
- 「言葉も内容も知っている」が6割台後半、「言葉は知っているが、内容は知らない」が1割台半ば、「言葉も内容も知らない」が17.3%となっています。
- 性別で比較すると、「言葉も内容も知っている」は女性が男性を上回ります。



(2) デートDVの認知

問 21 あなたは「デートDV」という言葉を知っていますか。（1つに○）

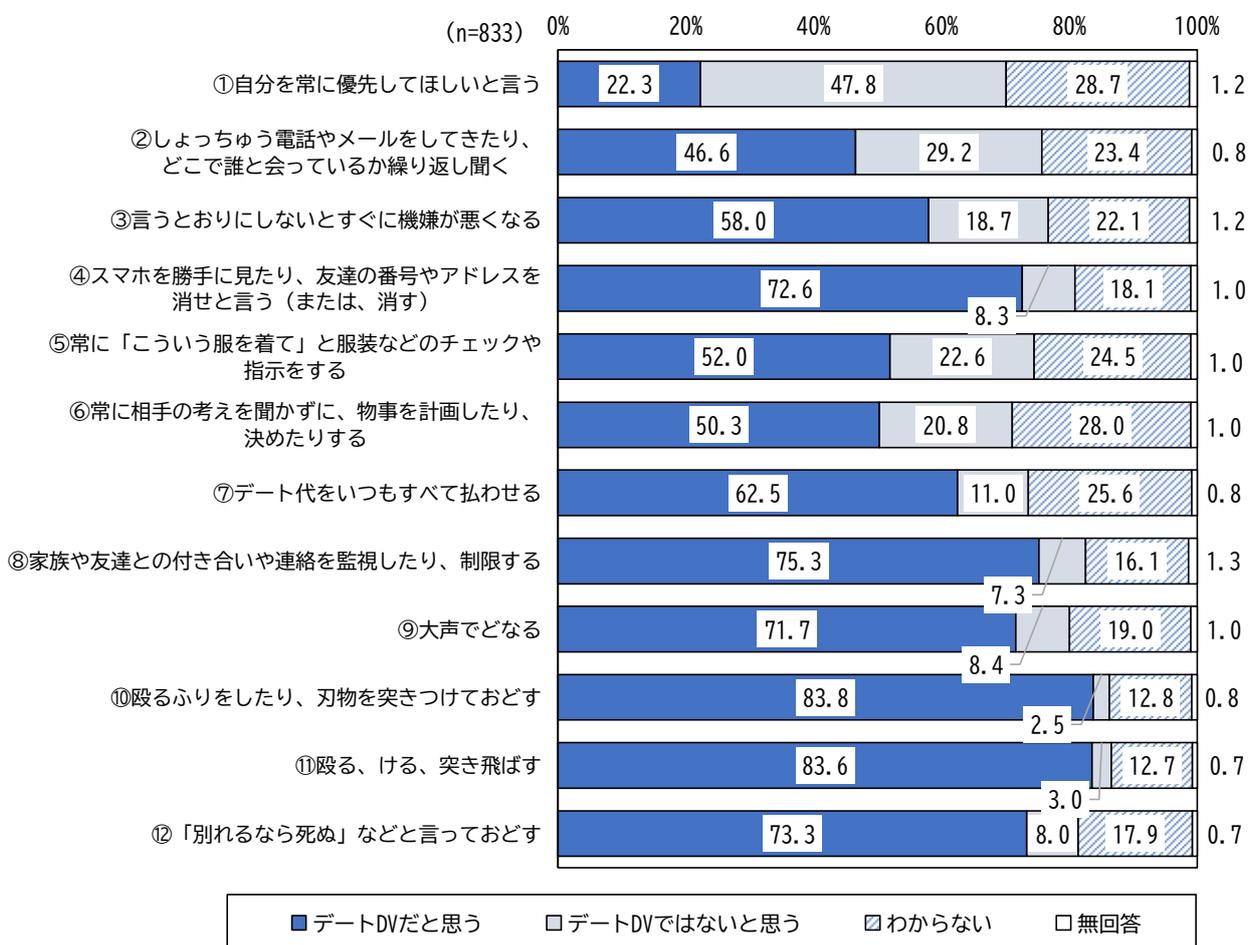
- 「言葉も内容も知っている」が約5割、「言葉は知っているが、内容は知らない」が1割台後半、「言葉も内容も知らない」が約3割となっています。
- 性別で比較すると、「言葉も内容も知っている」は女性が男性を上回ります。



(3) デートDVだと思う恋人との間での言動

問 22 あなたは、恋人との間で次のようなことをされた場合どう思いますか。(それぞれ1つに○)

- 「デートDVだと思う」は、<⑩殴るふりをしたり、刃物を突きつけておどす>、<⑪殴る、ける、突き飛ばす>で8割、<⑧家族や友達との付き合いや連絡を監視したり、制限する>、<④スマホを勝手に見たり、友達の番号やアドレスを消せと言う（または、消す）>や<⑨大声でどなる>で7割を超え高くなっています。
- 「わからない」は、<①自分を常に優先してほしいと言う>、<⑥常に相手の考えを聞かずに、物事を計画したり、決めたりする>や<⑦デート代をいつもすべて払わせる>で2割台後半となっています。

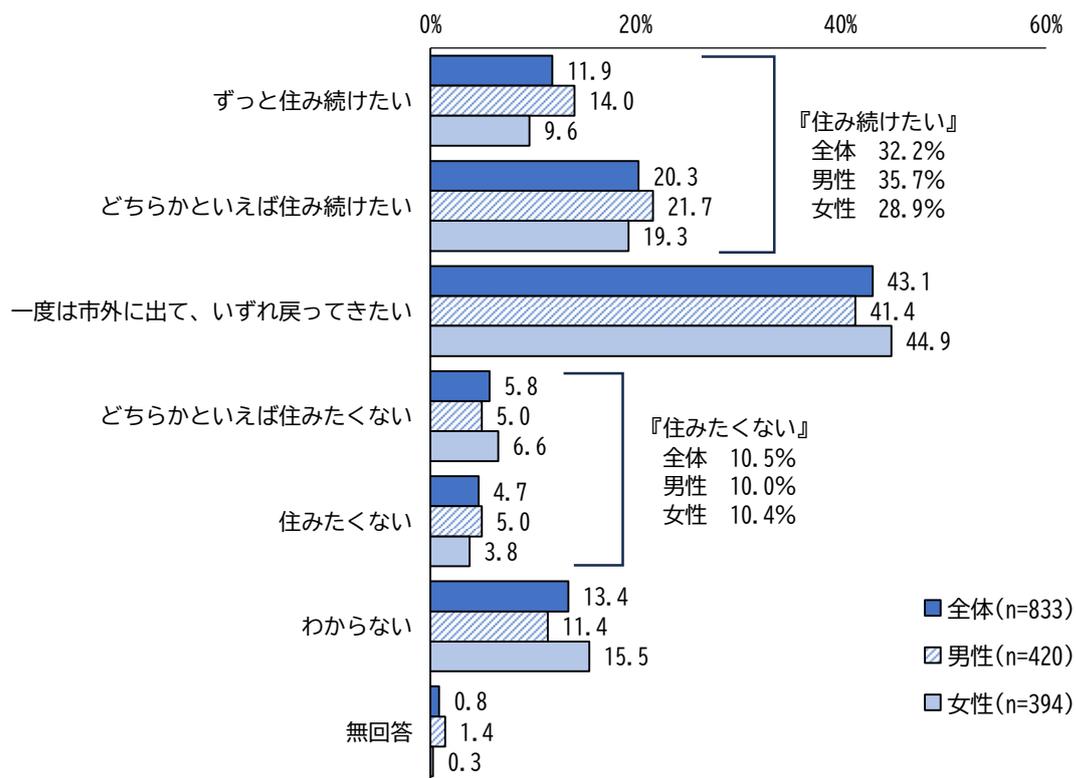


7. 将来のことについて

(1) 富士宮市への定住意向

問 25 あなたは、これからも富士宮市に住みたいと思いますか。(○は1つ)

- 「一度は市外に出て、いずれ戻ってきたい」が4割台前半で最も高くなっています。「ずっと住みたい」と「どちらかといえば住みたい」を合計した『住みたい』は3割台前半となっています。
- 性別で比較すると、男女ともに「一度は市外に出て、いずれ戻ってきたい」が最も高くなっていますが、『住みたい』は男性が女性を上回ります。

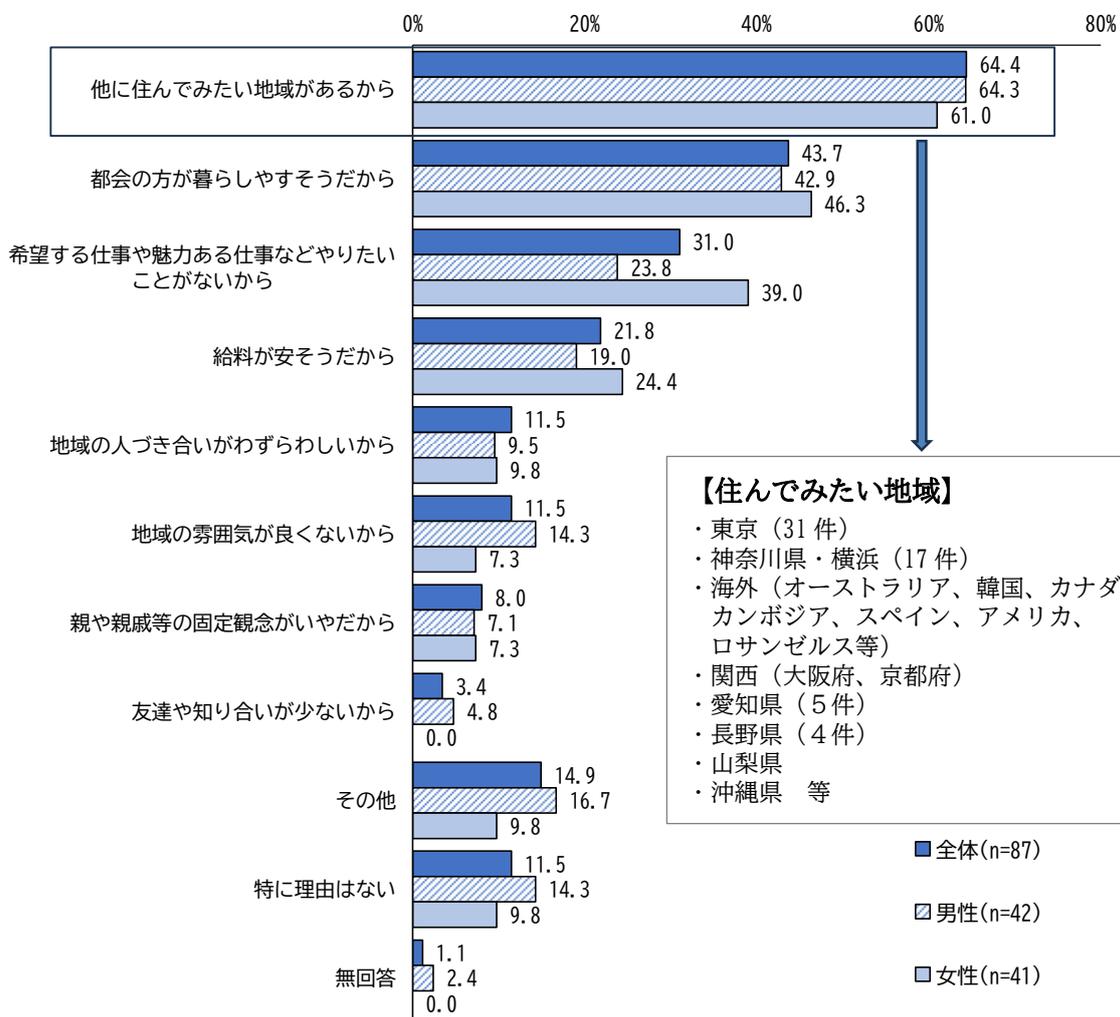


(2) 市に住みたくない理由

問 25-2 は、問 25 で「4」または「5」に○をつけた方にうかがいます。

問 25-2 住みたくないと思う理由をお聞かせください。(○はいくつでも)

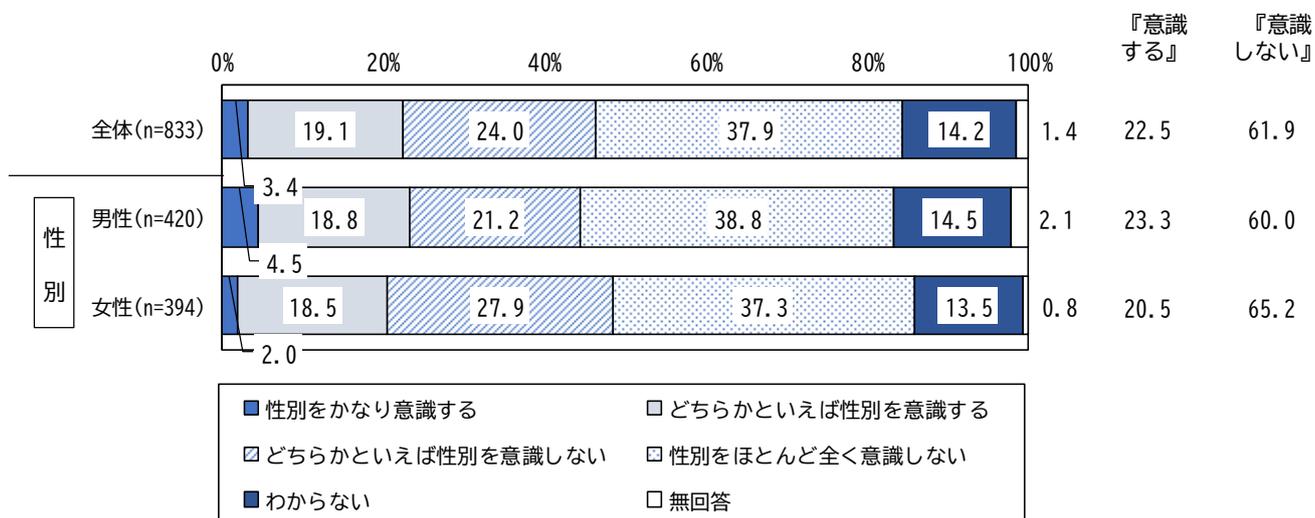
- 「他に住んでみたい地域があるから」が6割を超え最も高く、次いで「都会の方が暮らしやすそうだから」が4割台前半、「希望する仕事や魅力ある仕事などやりたいことがないから」が約3割となっています。
- 性別で比較すると、「希望する仕事や魅力ある仕事などやりたいことがないから」は女性が男性を大きく上回ります。



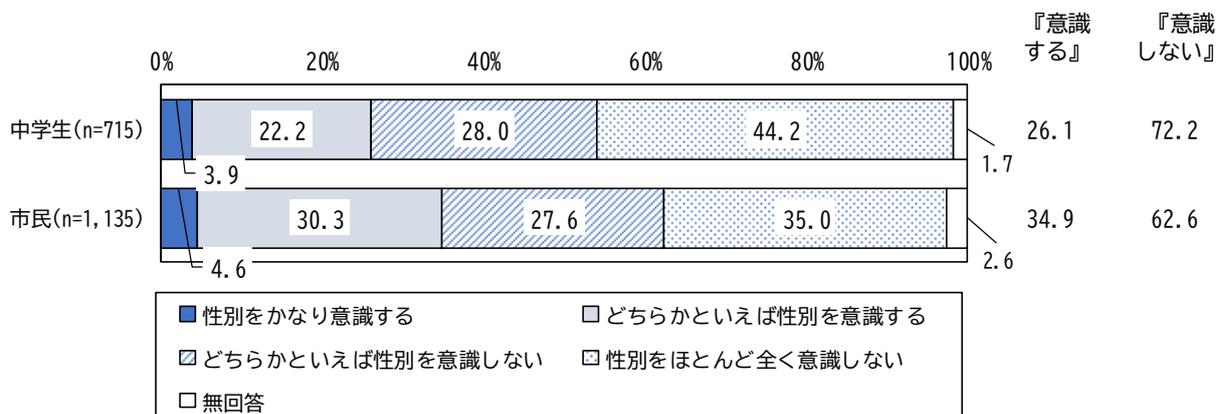
(3) 進路や職業の選択の性別の意識

問 27 あなたは、進路や職業の選択に性別を意識すると思いますか。(1つに○)

■ 「性別をほとんど全く意識しない」が3割台後半で最も高くなっています。「性別をほとんど全く意識しない」と「どちらかといえば性別を意識しない」を合計した『意識しない』は6割を超えています。



■ 市民意識調査の結果と比較するため、「わからない」を除き再集計したところ、『意識しない』は中学生が市民を上回ります。

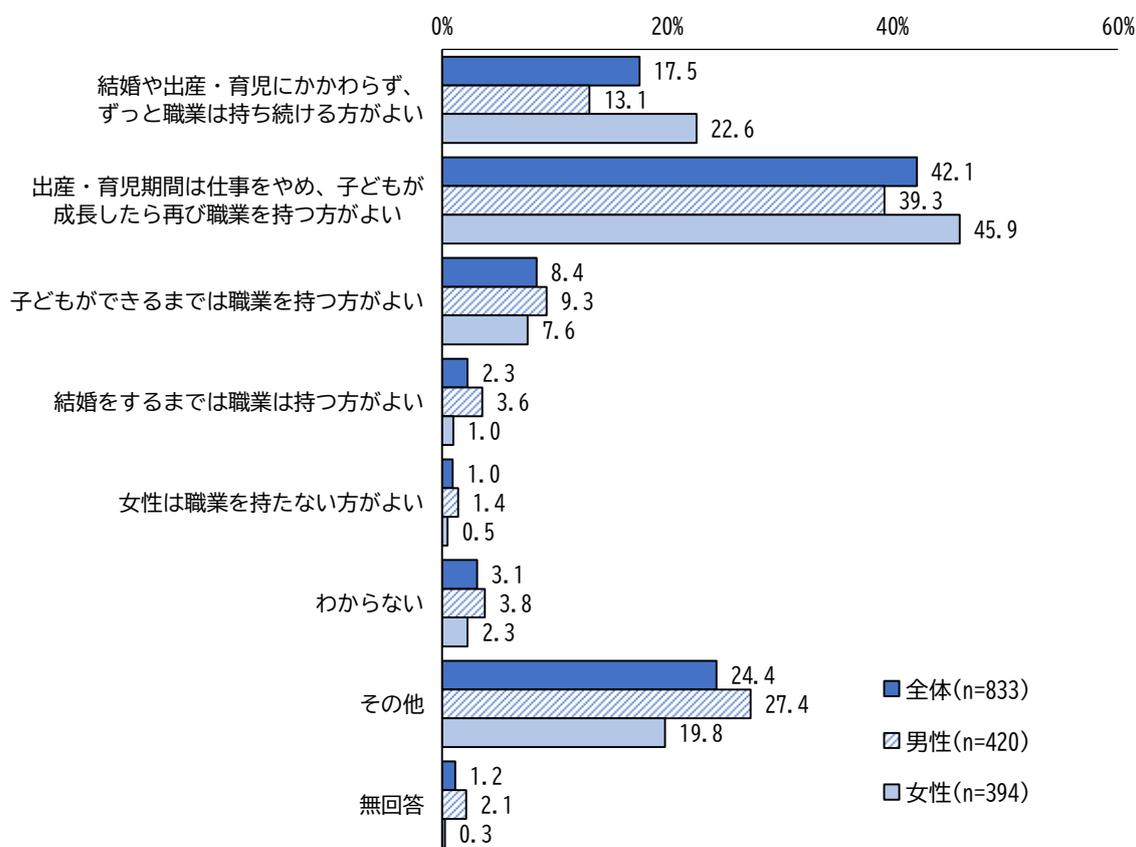


※市民意識調査の選択肢は、「性別をかなり意識した(意識する)」「どちらかといえば性別を意識した(意識する)」「どちらかといえば性別を意識しなかった(意識しない)」「性別をほとんど意識しなかった(意識しない)」となっている。

(4) 女性が働くことへの考え方

問 29 女性が働くことについて、次の中からあなたの考えに近いものを選んでください。(1つに○)

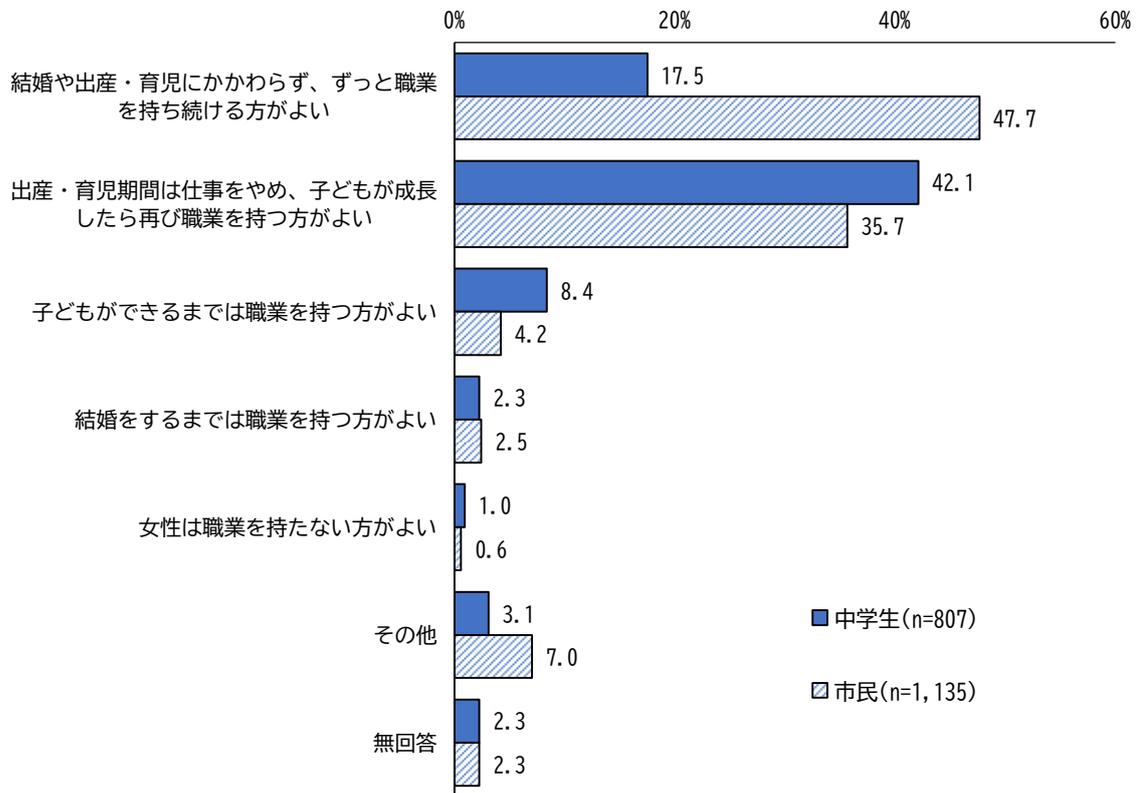
- 「出産・育児期間は仕事をやめ、子どもが成長したら再び職業を持つ方がよい」が4割台前半で最も高く、次いで「結婚や出産・育児にかかわらず、ずっと職業は持ち続ける方がよい」が1割台後半となっています。
- 性別で比較すると、男女ともに「出産・育児期間は仕事をやめ、子どもが成長したら再び職業を持つ方がよい」が最も高くなっていますが、その割合は女性が男性を上回ります。一方で「結婚や出産・育児にかかわらず、ずっと職業は持ち続ける方がよい」についても、女性が男性を上回っています。



【その他回答】

- ・男女関係なくその人の自由 (20件)
- ・中学生に聞くことではない (2件)
- ・育休を取って無理のないように
- ・夫と相談して決めるべき
- ・その質問が時代遅れ

■ 市民意識調査の結果と比較するため、「わからない」を除き再集計したところ、「結婚や出産・育児にかかわらず、ずっと職業を持ち続ける方がよい」は中学生が市民を大きく下回り、「出産・育児期間は仕事をやめ、子どもが成長したら再び職業を持つ方がよい」は中学生が市民を上回ります。



VI 自由回答

市民意識調査

- ◆私は子育て中なので子育て世帯としての意見が強くなってしまっていますが、夫に育休をとってほしかったものの、会社からの理解を得るのが難しかったこともあります。収入が減ることが一番ネックとなり断念しました。育休中、給与全額もらえないのは、出費がかなり増える子育て世帯の大きな痛手です。経済支援がなければ育児だけでなく、介護についても結局収入のある男性が働き、収入が少ない女性が担うことになります。(20代女性／勤め人フルタイム)
- ◆自然に任せればそのまま女性比率は上がって行くと思うし、女性の学歴が上がっていくにつれて給料や会社などの経済界における社会的価値が上がっている。不自然な活動、女性参画、女性の管理職比率などが数字として示された結果多くの企業で男女の不自然な格差が生まれている。女性の管理職を不自然に増やしたことで男性社員のやりがいの低下など不満がでている。(30代男性／勤め人(フルタイム))
- ◆介護についてもやってもらって当たり前と感じている人がまだまだ多い。実際、義父母の介護をしている家庭も多く、そのほとんどを血のつながりがない妻が担っている。介護に限らずではあるが、どんなことでも「やってもらって当たり前」という考えがよくないし、性別や立場などは関係なく、皆平等に生きられる社会をつくってほしい。(40代女性／勤め人(パートタイム))
- ◆男性には男性、女性には女性の役割があると思うので、すべてを平等にするというのは難しいと思います。ただ、男性だから、女性だからと不利になるような環境をなるべく改善して欲しいです。お互いを尊重しあい、協力しあえる社会を作りたい。(50代女性／勤め人(パートタイム))
- ◆私が子育てをしていた時、保育園は5時半まででした。職場の理解も薄く、仕事を残して保育園に急ぐ私に「だから女は困るんだ、まともに仕事をしろよ。」という声が聞こえてきました。本当に悔しくて、子どもにも申し訳なくて、保育園に向かう車の中で涙が出ました。今、息子たちは進んで家事や子育てに手を出し、育児休暇も短いですが取りました。やっと少しだけ平等に近づいたと思います。(60代女性／勤め人(フルタイム))
- ◆性別にかかわらず、多様な選択ができる環境は素晴らしいことだと思うが、男性は男性らしく、女性は女性らしくもある得意分野もあって良いと思う。(70代男性／勤め人(フルタイム))

事業所調査

- 少子化問題をなんとか…建設業は異性との出会いが少ないため、マッチングする機会を何か考えてほしい。建設業に限らず全産業に言えることではないだろうか考える。ただ、本人達の意識の問題もありますが…。女性の時代に入っていくと思われるので、女性には頑張ってもらいたい。(建設業)
- 社長が高齢の会社だと今回の様なアンケート内容に理解できないといった状況があります。高齢役員の方の意識を変えるところから取り組んで頂ければ、よりスムーズに企業を取り入れられるのでは？と思います。(製造業)
- 男女雇用機会均等法を理解する人が少ないのでもっと理解のための宣伝をお願いしたい。(サービス業)

市民意識調査(中学生)

- いいことだと思うし、自分もこういった事が進んだ社会で生活したいと思います。
- それぞれが、ちゃんと役目を果たして協力できることが一番いいと思います。女性も男性も差別なく働けることがいいと思います。
- 男女共同参画社会については、やらなければいけないと思う。ただ、どちらかの性別の保護や社会的な地位を高めすぎてしまったら、価値観は残り続けると思う。偏った価値観を取り除くには、互いのことを知る必要があると思う。
- 私は小学校の頃にLGBTQ+のことについて調べて、その大変さなどを知ってもらって発表をやっていましたが、小学生には理解が難しかったりして、大変でした。でも、中学生からは理解が出来ると思うので、そういったイベントを増やすことが必要だと思う。